

令和6年度 高知県・高知市 知事・市長及び教育長連携会議

高知市教育委員会

説 明 資 料

- 学力向上の取組の成果と課題、今後の取組について（P1～）
- 不登校対策について（P26～）
- 保幼小連携・接続の取組について（P30）



高知市

1 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

調査の概要

(1) 調査の目的

- ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 実施日 令和6年4月18日(木)

(3) 調査内容

- ◇ 小学校第6学年(義務教育学校前期課程を含む)、中学校第3学年(義務教育学校後期課程)の全児童生徒を対象
- ◇ 教科に関する調査は、国語、算数・数学を出題
 - ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- ◇ 生活習慣や学習環境等に関する質問調査はICT端末を用いたオンラインによる回答方式で実施

(4) 高知市立学校の参加状況

◇ 参加学校数

小・義務教育学校(前期課程)	41校
中・義務教育学校(後期課程)	19校
小・中・義務教育学校合計学校数	58校

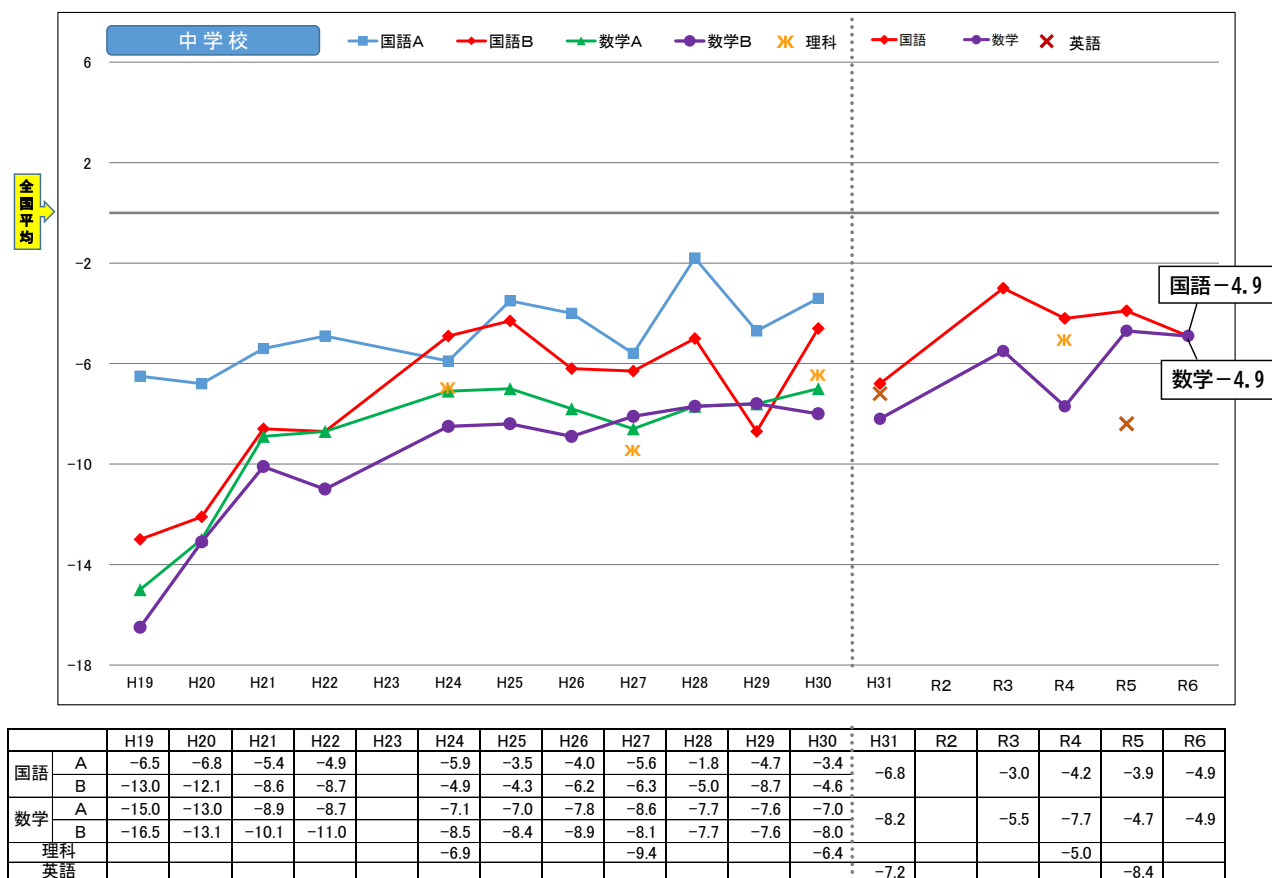
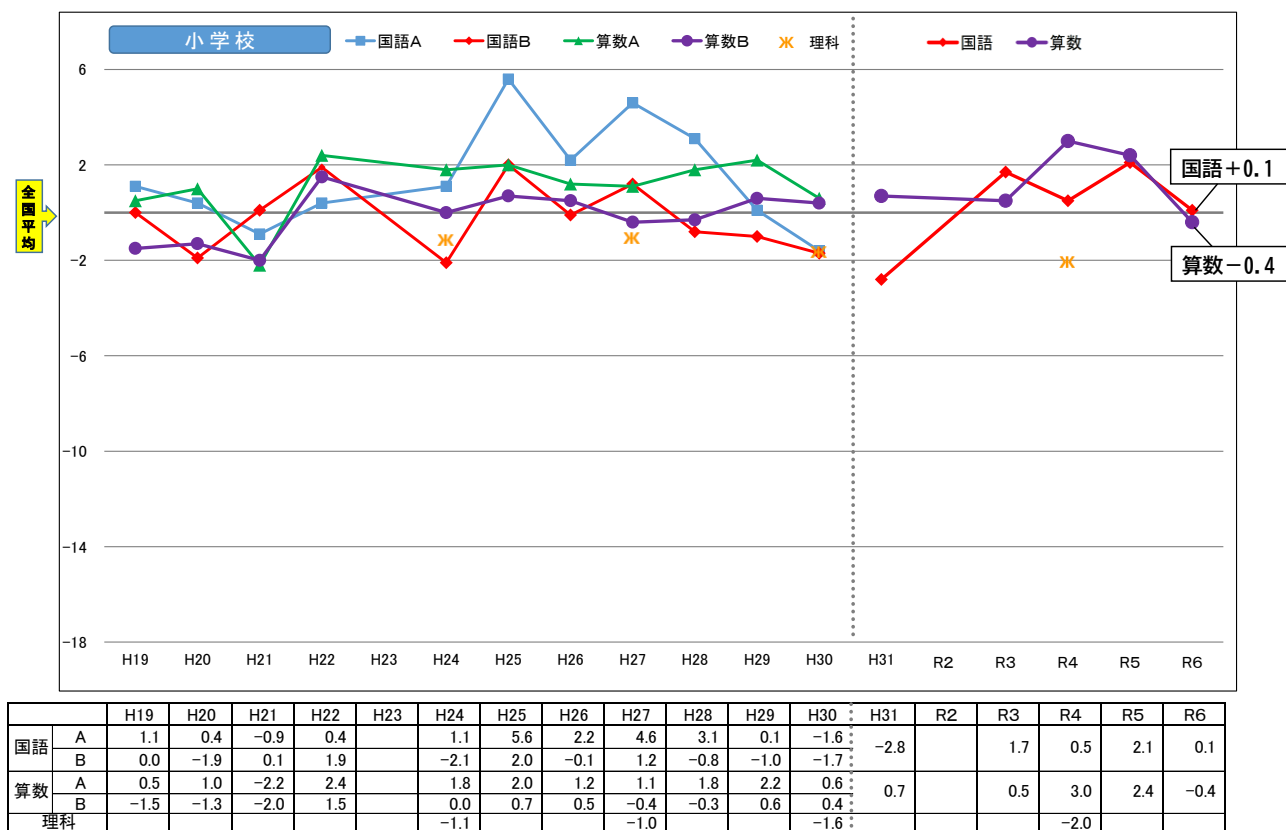
◇ 小学校解答(回答)児童数

国語	2,306名
算数	2,305名
児童質問調査	2,372名

◇ 中学校解答(回答)生徒数

国語	1,553名
数学	1,551名
生徒質問調査	1,572名

2 H19～R6における高知市平均と全国平均正答率との差の推移



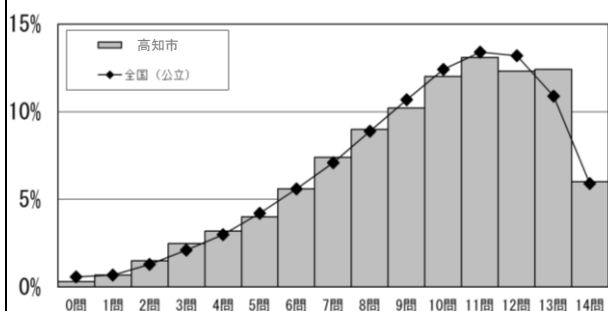
3 各教科における高知市の学力の状況（小学校第6学年）

- ・「正答数分布の状況」においては、国語では、上位層が全国より若干多くなっている。算数では中位層の割合が全国より少なく、下位層の割合が全国より若干多くなっている。
- ・「評価の観点」においては、国語では「思考・判断・表現」において、算数では「知識・技能」において正答率が全国よりも低く、課題が見られる。

【小学校国語】

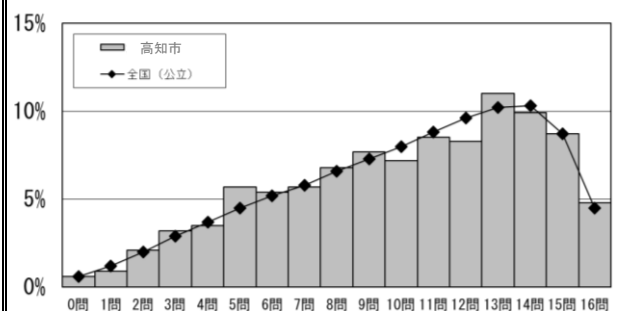
正答数分布の状況

国語	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知市	2,306	9.5/14	67.8	10.0	3.1
全国	947,364	9.5/14	67.7	10.0	3.1

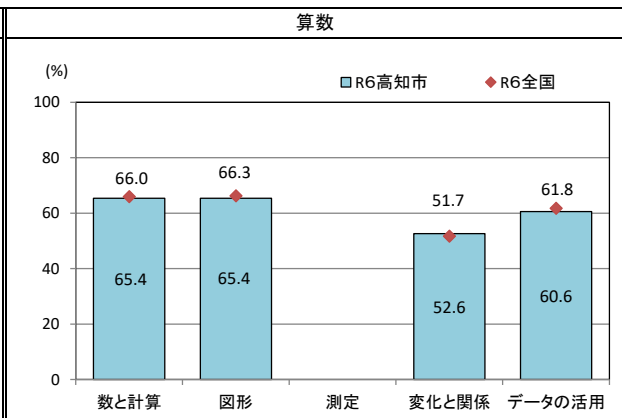
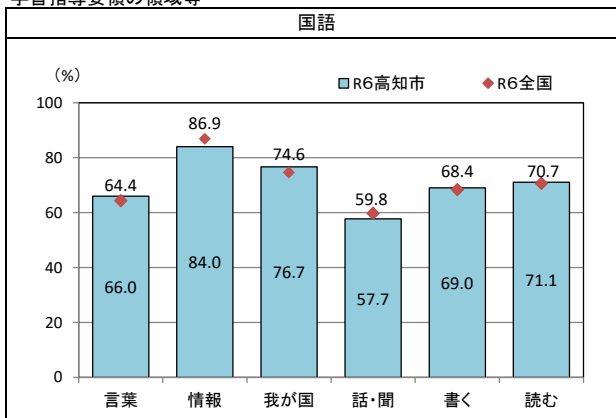


【小学校算数】

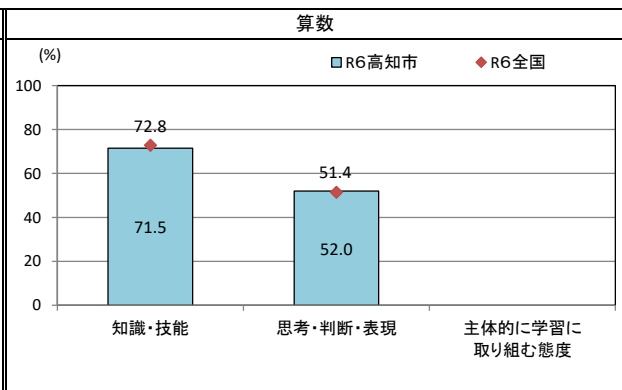
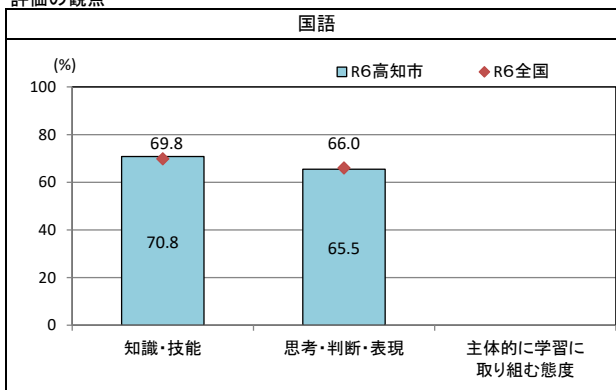
算数	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知市	2,305	10.1/16	63.0	11.0	3.9
全国	947,579	10.1/16	63.4	11.0	3.9



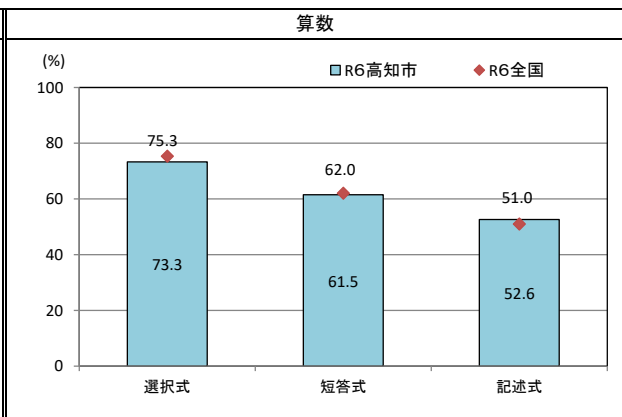
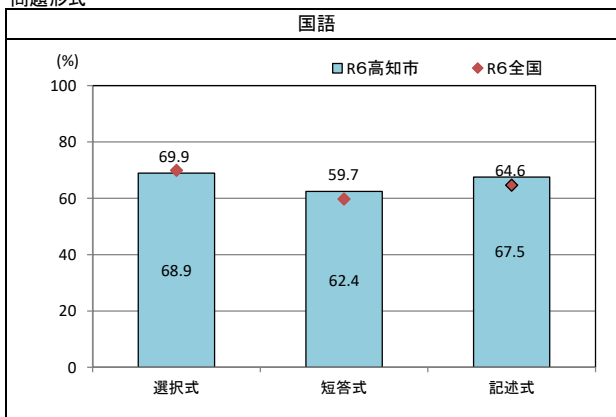
学習指導要領の領域等



評価の観点



問題形式



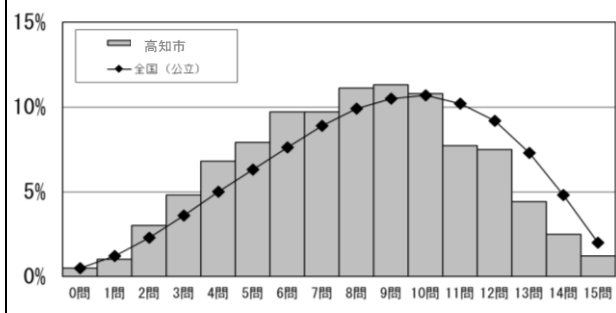
3 各教科における高知市の学力の状況（中学校第3学年）

- ・「正答数分布の状況」においては、国語、数学ともに、全国と比べて上位層の割合が少なく、中位層から下位層の割合が多くなっている。
- ・「評価の観点」においては、国語、数学ともに、思考・判断・表現の正答率に全国との差があり、課題が見られる。

【中学校国語】

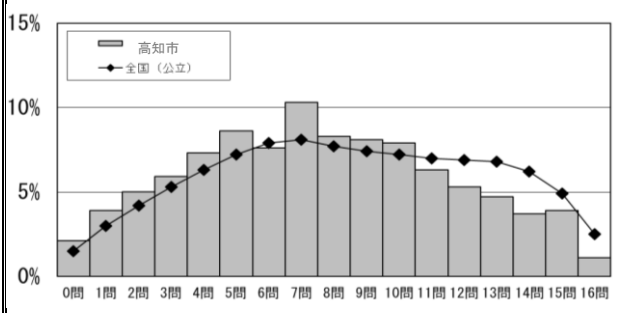
正答数分布の状況

国語	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知市	1,553	8.0/15	53.2	8.0	3.2
全国	875,574	8.7/15	58.1	9.0	3.4

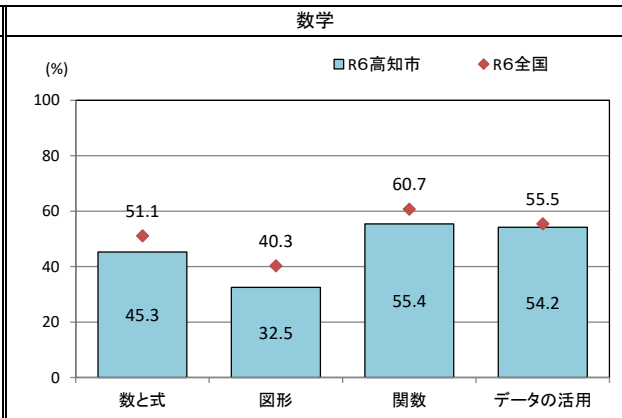
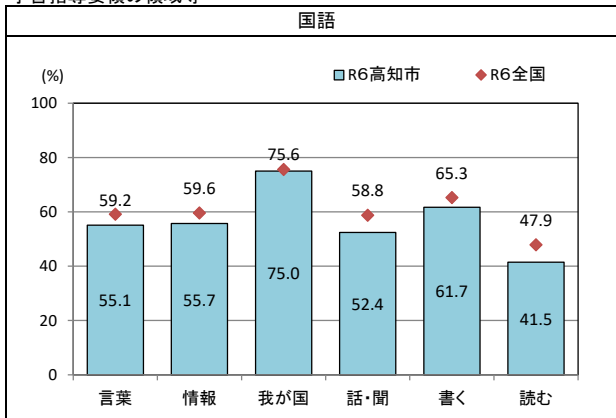


【中学校数学】

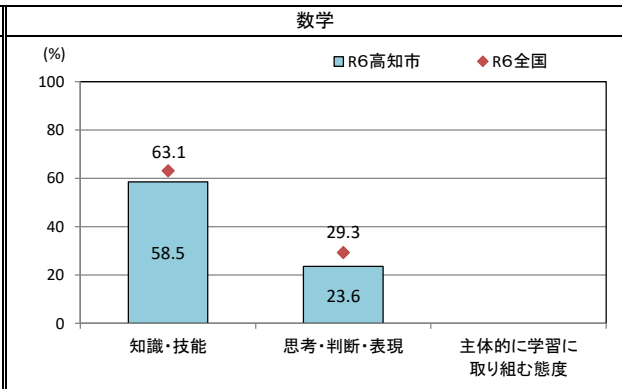
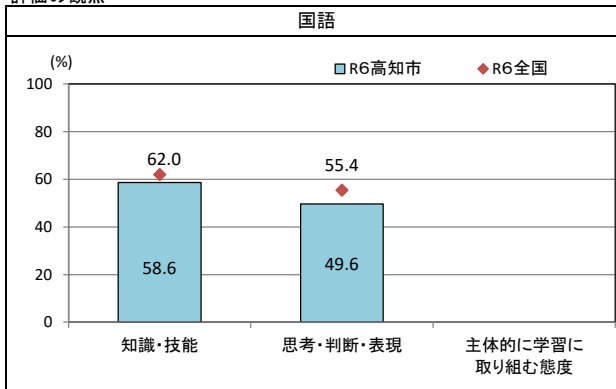
数学	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知市	1,551	7.6/16	47.6	7.0	4.0
全国	875,952	8.4/16	52.5	8.0	4.1



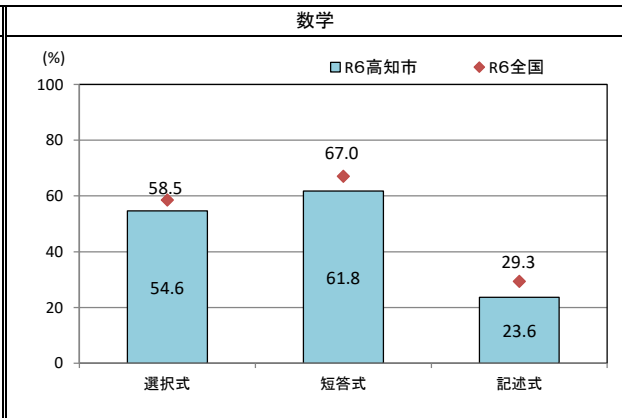
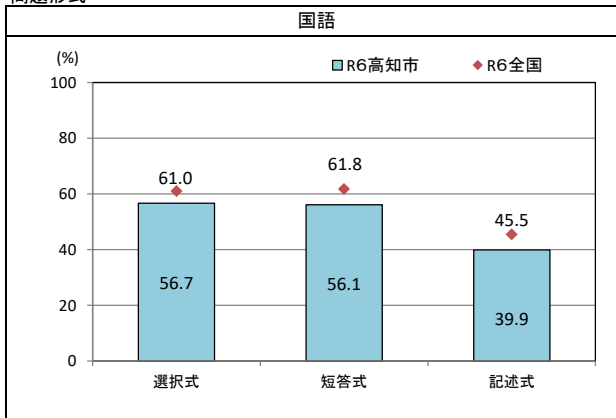
学習指導要領の領域等



評価の観点



問題形式

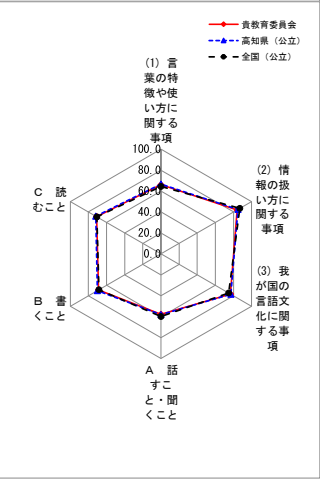


・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象児童数			高知市教育委員会		高知県（公立）	全国（公立）
			2,306		4,553	947,364
分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				貴教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）
全体			14	67.8	68.5	67.7
学習指導要領 の内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	66.0	66.6	64.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	84.0	84.9	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	76.7	77.0	74.6
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	57.7	58.0	59.8
		B 書くこと	2	69.0	70.2	68.4
		C 読むこと	3	71.1	71.9	70.7
評価の観点	知識・技能		6	70.8	71.4	69.8
	思考・判断・表現		8	65.5	66.3	66.0
	主体的に学習に取り組む態度		0			
問題形式	選択式		10	68.9	69.4	69.9
	短答式		2	62.4	63.0	59.7
	記述式		2	67.5	69.2	64.6

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点	問題形式	正答率（％）			無解答率（％）			全国と高知市との差（正答率）			
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	貴教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）		貴教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）
			(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと												
1一	学校の取り組みを紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したものと、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる				5・6ア			○	○		59.1	60.8	62.5	0.3	0.2	0.7	-3.4		
1二（1）	オンラインで交流する場において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる	5・6イ						○	○		73.3	74.3	75.9	0.3	0.2	0.6	-2.6		
1二（2）	オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				5・6ウ			○	○		51.7	51.1	52.9	0.3	0.2	0.7	-1.2		
1三	オンラインで交流する場において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものと、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる				5・6ア			○	○		62.3	62.1	63.8	0.4	0.3	0.9	-1.5		
2一（1）	高山さんが文章を書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものと、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる				5・6ア			○	○		79.1	80.0	80.3	0.3	0.2	0.9	-1.2		
2一（2）	【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものと、適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	5・6イ						○	○		84.0	84.9	86.9	0.5	0.3	0.9	-2.9		
2二	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く	目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる				5・6ウ			○	○		58.8	60.4	56.6	2.9	2.9	4.9	2.2		
2三ア	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す（きょうぎ）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6エ						○	○		42.5	43.7	43.4	8.8	8.1	13.2	-0.9		
2三イ	【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す（なげる）		5・6エ						○	○		82.3	82.2	76.0	3.9	3.6	8.0	6.3		
3一	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係をつめることができるかどうかをみる	3・4カ						○	○		65.9	66.3	62.3	1.0	0.7	2.0	3.6		
3二（1）	「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話しかけているかについて説明したものと、適切なものを選択する	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる				5・6イ			○	○		65.7	65.3	66.9	1.1	0.9	2.6	-1.2		
3二（2）	【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したものと、適切なものを選択する	人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる				5・6エ			○	○		71.5	72.4	72.5	1.3	1.0	2.9	-1.0		
3三	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる				5・6エ			○	○		76.2	78.1	72.6	7.3	7.1	12.6	3.6		
3四	【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くことができるかどうかをみる	5・6オ						○	○		76.7	77.0	74.6	3.6	2.8	7.6	2.1		

…成果

…課題

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

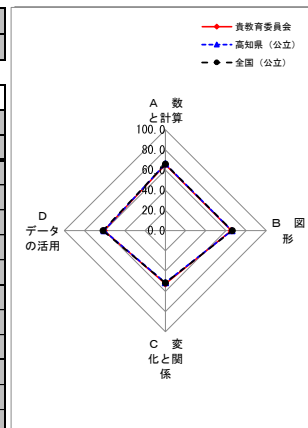
集計結果

対象児童数		高知市教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）
		2,305	4,552	947,579

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）
全体		16	63.0	63.3	63.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	65.4	66.2	66.0
	B 図形	4	65.4	65.9	66.3
	C 測定	0			
	C 変化と関係	3	52.6	51.5	51.7
	D データの活用	4	60.6	60.8	61.8
評価の観点	知識・技能	9	71.5	72.3	72.8
	思考・判断・表現	7	52.0	51.7	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	73.3	74.2	75.3
	短答式	7	61.5	61.7	62.0
	記述式	4	52.6	52.3	51.0

(注)「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点		問題形式		正答率(%)			無解答率(%)			全国と高知市との差（正答率）
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	貴教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）	貴教育委員会	高知県（公立）	
1（１）	問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる	2（2） 7（正）					○		○		59.6	61.1	62.1	0.1	0.1	0.2	-2.5
1（２）	はじめに持っていた折り紙の枚数を口枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ	数量の関係を、口を用いた式に表すことができるかどうかをみる	3（7） 7（正）					○		○		86.2	86.6	88.5	0.2	0.1	0.3	-2.3
2（１）	350×2＝700であることを基に、350×16の積の求め方と答えを書く	計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	3（3） 4（正）					○		○		61.9	62.5	56.9	1.9	2.1	3.4	5.0
2（２）	除数が1／10になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ	除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる	5（3） 7（正）					○		○		68.7	69.4	69.1	0.5	0.5	1.3	-0.4
3（１）	作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ	直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる	4（2） 7（正）					○		○		83.9	84.4	85.5	0.4	0.3	0.6	-1.6
3（２）	円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ	直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる	5（1） 7（正）					○		○		68.0	69.8	71.3	0.5	0.5	0.8	-3.3
3（３）	直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く	球の直径の長さや立方体の辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる	3（1） 7（正） 5（4） 7（正）					○		○		35.3	35.6	36.5	5.3	5.0	9.8	-1.2
3（４）	五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く	角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	5（2） 7（正） 4（正）					○		○		74.6	73.8	72.0	1.1	1.1	1.8	2.6
4（１）	540÷0.6を計算する	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる	5（3） 7（正）					○		○		69.4	71.3	70.1	1.6	1.4	3.1	-0.7
4（２）	3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる	5（1） 4（7） 5（2） 4（7）					○		○		71.4	70.8	70.0	1.8	1.8	3.3	1.4
4（３）	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	5（2） 7（正） 4（正）					○		○		32.9	31.3	31.0	0.8	1.0	2.4	1.9
4（４）	家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く	速さの意味について理解しているかどうかをみる	5（2） 7（正）					○		○		53.4	52.4	54.1	2.8	2.8	4.6	-0.7
5（１）	円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く	円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる	5（1） 7（正）					○		○		82.3	82.9	80.8	0.9	0.8	1.8	1.5
5（２）	示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く	簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる	3（1） 7（正）					○		○		72.2	72.5	73.3	2.0	2.0	3.9	-1.1
5（３）	折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	3（1） 4（7） 4（1） 7（正）					○		○		41.1	41.6	44.0	8.5	8.6	12.6	-2.9
5（４）	示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く	示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式を表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる	2（1） 4（正）				3（1） 7（正）	○		○		46.8	46.3	49.3	1.9	1.9	4.0	-2.5

…成果

…課題

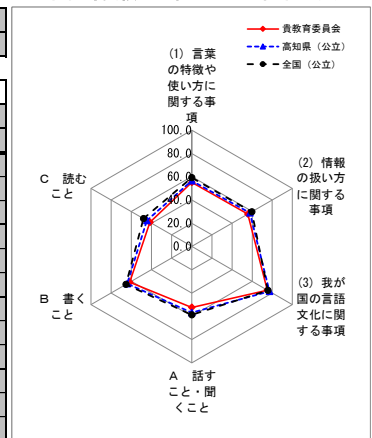
・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象生徒数	高知市教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）
	1,553	3,582	875,574

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				貴教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）
全体			15	53.2	56.0	58.1
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	3	55.1	56.5	59.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	55.7	57.7	59.6
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	75.0	77.2	75.6
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	52.4	56.9	58.8
		B 書くこと	2	61.7	64.1	65.3
		C 読むこと	4	41.5	44.6	47.9
		評価の観点	知識・技能	6	58.6	60.4
思考・判断・表現	9		49.6	53.0	55.4	
主体的に学習に取り組む態度	0					
問題形式	選択式	9	56.7	58.8	61.0	
	短答式	3	56.1	59.0	61.8	
	記述式	3	39.9	44.3	45.5	

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)			全国と高知市との差（正答率）			
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等					選択式	短答式	記述式	貴教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）		貴教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）
			(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2)情報の扱い方に 関する事項	(3)我が国の言語文化に 関する事項	A話すこと・聞くこと	B書くこと	C読むこと												
1一	話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる				1エ			○	○		54.0	58.7	63.2	0.3	0.1	0.4	-9.2		
1二	話合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む	資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる				2ウ			○	○		60.6	64.2	68.5	4.7	3.7	3.5	-7.9		
1三	話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		1ア					○	○		39.1	41.4	44.0	0.3	0.1	0.5	-4.9		
1四	話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く	話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				1オ			○		○	42.8	47.8	44.7	10.9	8.4	9.9	-1.9		
2一	本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる				2ウ			○	○		30.5	33.9	36.3	0.2	0.2	0.5	-5.8		
2二	本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		2ア					○	○		72.4	74.1	75.2	0.2	0.2	0.6	-2.8		
2三	本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる				2ア			○	○		57.4	60.4	64.5	0.3	0.3	0.6	-7.1		
2四	本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する	目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる				1ウ			○		○	32.6	36.6	42.6	7.3	6.6	8.4	-10.0		
3一	物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる				1ア			○	○		79.1	79.6	81.4	0.5	0.3	0.7	-2.3		
3二	物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択する	文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる	2オ						○	○		51.6	51.8	53.8	0.9	0.7	1.0	-2.2		
3三	漢字を書く（みちたりた）	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	2ウ						○		○	62.5	65.2	68.8	10.4	8.5	10.2	-6.3		
3四	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する	表現の効果を考えながら描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる				2ウ			○		○	44.3	48.6	49.3	16.7	13.9	15.0	-5.0		
4一	短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する	表現の技法について理解しているかどうかをみる	1オ						○	○		51.3	52.4	54.9	2.5	1.7	1.8	-3.6		
4二	短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える	短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる				1イ			○	○		45.4	47.5	48.3	5.0	3.5	3.4	-2.9		
4三	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解しているかどうかをみる		1エ(イ)					○	○		75.0	77.2	75.6	3.1	2.0	2.3	-0.6		

…成果

…課題

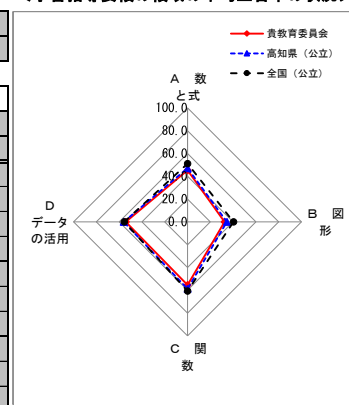
・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象生徒数		高知市教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）
		1,551	3,581	875,952

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）
全体		16	47.6	49.9	52.5
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	45.3	47.1	51.1
	B 図形	3	32.5	34.5	40.3
	C 関数	4	55.4	58.8	60.7
	D データの活用	4	54.2	56.0	55.5
評価の観点	知識・技能	11	58.5	60.5	63.1
	思考・判断・表現	5	23.6	26.6	29.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	54.6	56.9	58.5
	短答式	6	61.8	63.4	67.0
	記述式	5	23.6	26.6	29.3

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率（%）			無解答率（%）			全国と高知市との差（正答率）
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	貴教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）	貴教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）	
1	nを整数とすると、連続する二つの偶数を、それぞれnを用いた式で表す	連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	2 (1) ア (4)					○				○	29.1	28.1	34.8	14.6	11.8	14.3	-5.7
2	等式 $6x + 2y = 1$ をyについて解く	等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる	2 (1) ア (2)					○				○	51.3	51.0	52.5	8.6	6.5	9.7	-1.2
3	正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選ぶ	回転移動について理解しているかどうかをみる		1 (1) ア (4)				○				○	63.0	64.4	68.3	0.1	0.1	0.3	-5.3
4	一次関数 $y = ax + b$ について、 $a = 1$ 、 $b = 1$ のときのグラフに対して、bの値を変えずに、aの値を大きくしたときのグラフを選ぶ	一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる			2 (1) ア (2)			○				○	60.8	62.2	65.3	0.5	0.4	0.7	-4.5
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる				2 (2) ア (4)		○				○	65.7	67.7	73.1	3.8	3.3	4.2	-7.4
6 (1)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる	1 (1) ア (4)					○				○	87.7	88.8	90.2	2.5	2.0	2.5	-2.5
6 (2)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、○に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	2 (1) イ (4)					○				○	24.4	29.8	35.9	24.2	20.1	23.5	-11.5
6 (3)	正四面体の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について予想できることを説明する	統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2 (1) イ (4)					○				○	33.8	37.6	41.8	27.3	23.2	29.6	-8.0
7 (1)	障害物からの距離が10cmより小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、10cmの位置から進んだ距離の最頻値を求める	与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる				4 (6) ア (2)		○				○	70.1	73.0	74.3	6.1	4.6	5.8	-4.2
7 (2)	車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				2 (1) イ (2)		○				○	29.6	29.0	25.9	25.0	21.4	29.4	3.7
7 (3)	車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ	複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる				2 (1) ア (2)		○				○	51.3	54.3	48.5	0.3	0.4	0.9	2.8
8 (1)	ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ	二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる				2 (1) ア (2)		○				○	77.7	81.3	83.4	0.4	0.3	0.8	-5.7
8 (2)	18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる				2 (1) イ (4)		○				○	16.1	19.8	17.1	11.2	10.4	16.4	-1.0
8 (3)	結衣さんがかいたグラフから、18Lの灯油を使い切るような「強」と「弱」のストーブの設定の組み合わせとその使用時間を書く	グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる				2 (1) ア (2)		○				○	67.0	72.0	76.9	4.3	3.2	3.8	-9.9
9 (1)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ = PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる				2 (2) イ (4)		○				○	14.0	17.0	25.8	33.9	30.2	33.6	-11.8
9 (2)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ	事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる				2 (2) ア (4) イ (2)		○				○	20.4	22.2	26.7	4.2	4.9	4.5	-6.3

…成果

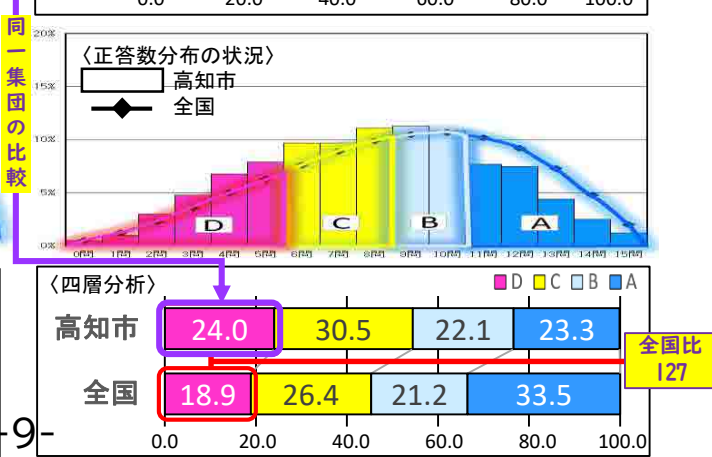
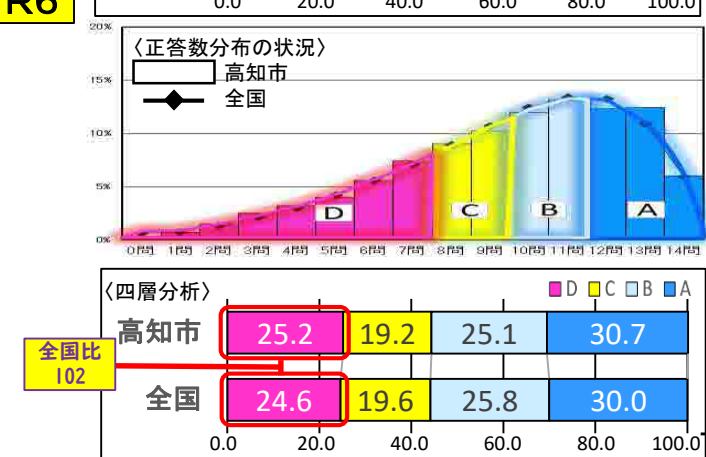
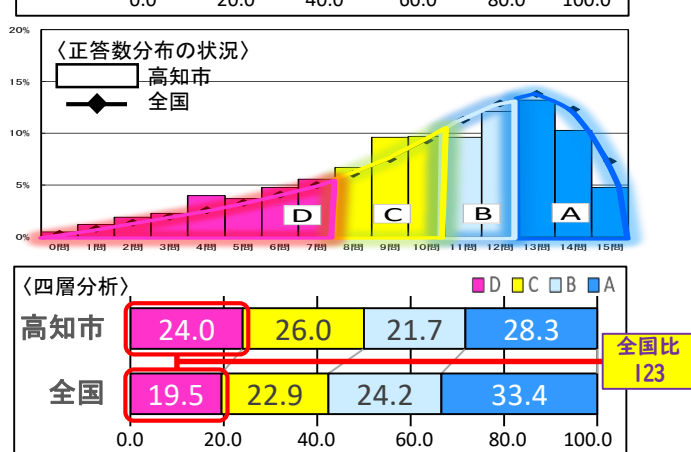
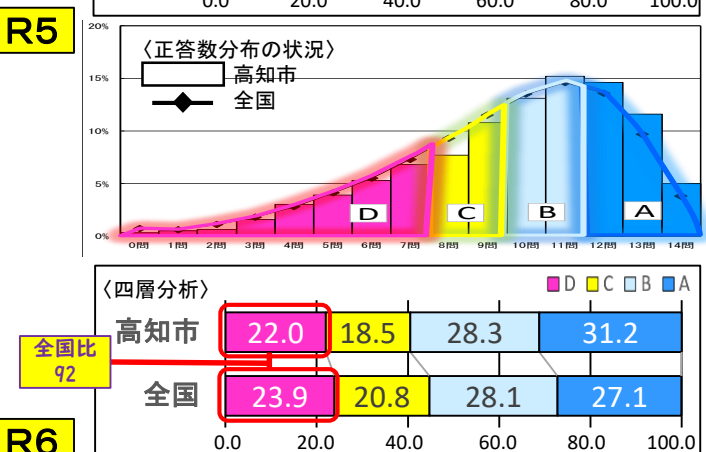
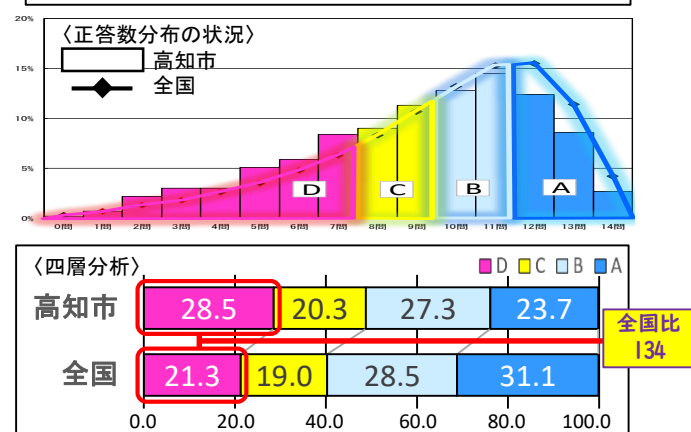
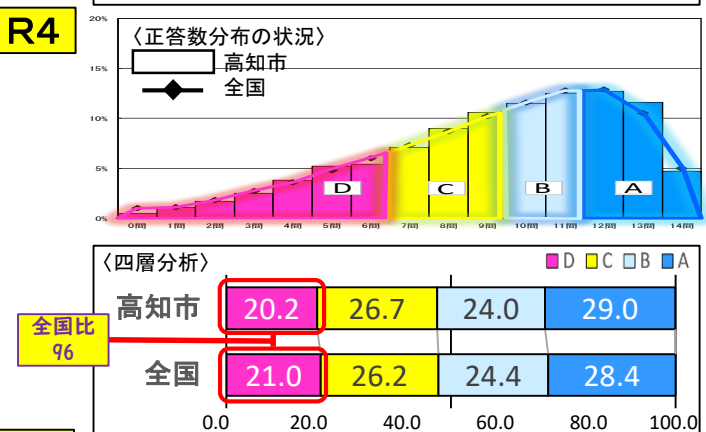
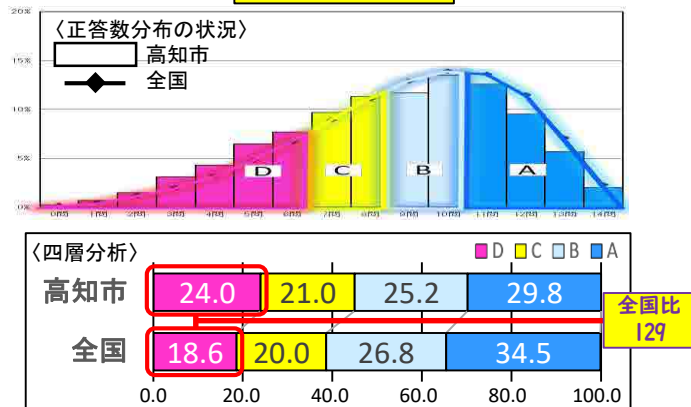
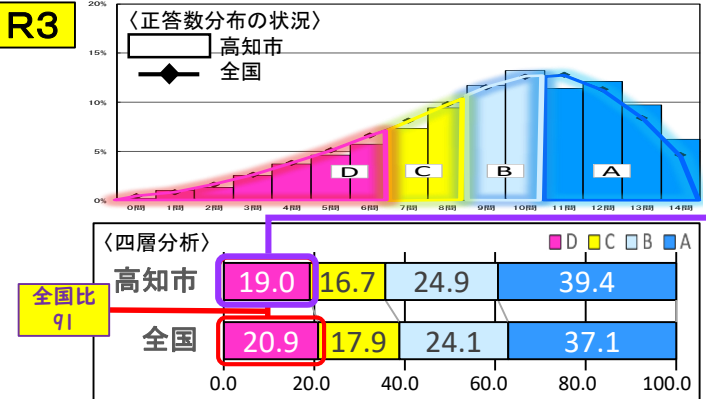
…課題

4 正答数分布の状況と四層分析の経年での比較（国語）

※四層分析…文部科学省が四層に区分したものに高知市の状況を当てはめたもの。（A～D）

小学校国語

中学校国語

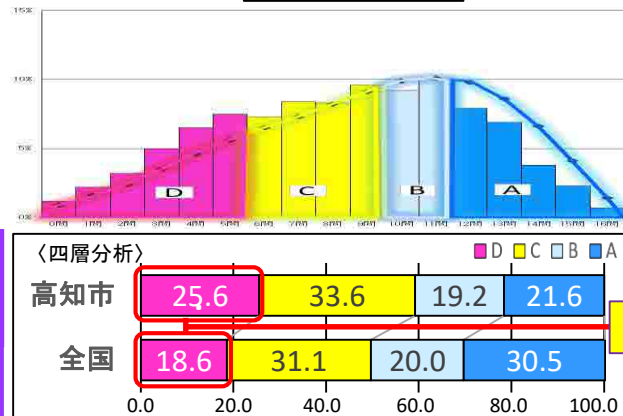
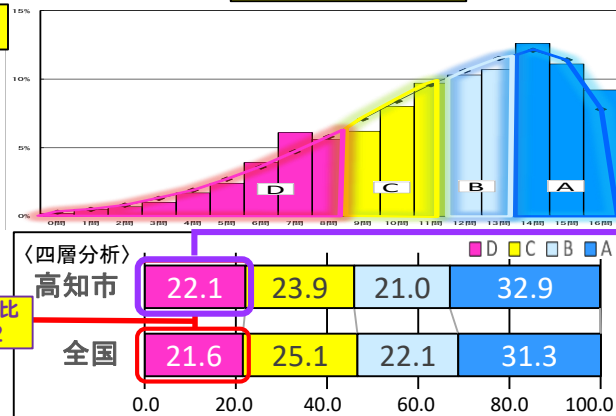


4 正答数分布の状況と四層分析の経年での比較（算数・数学）

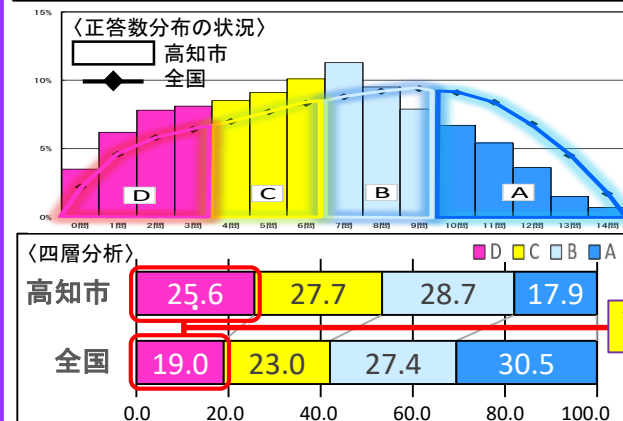
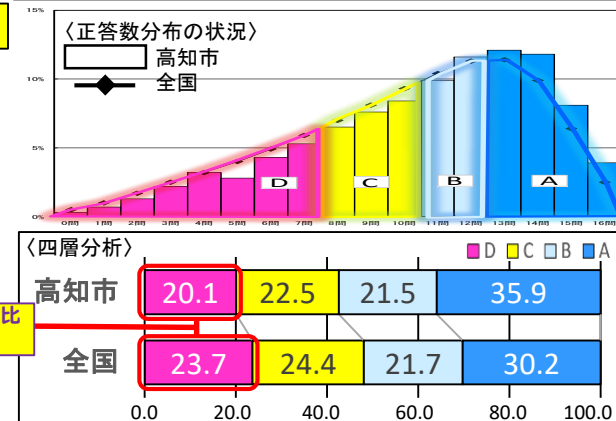
小学校算数

中学校数学

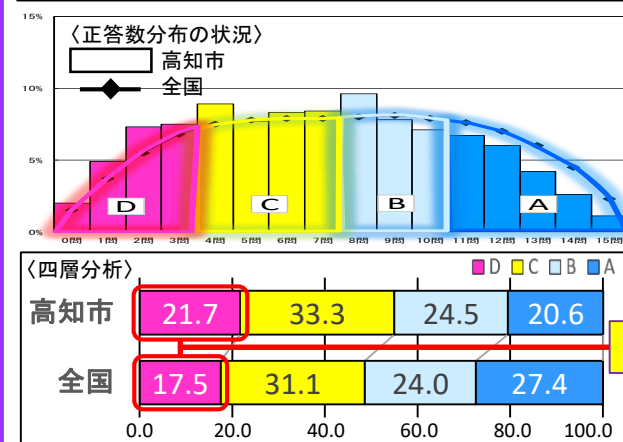
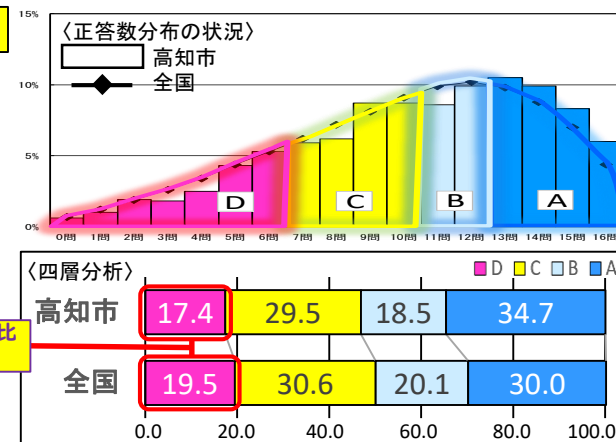
R3



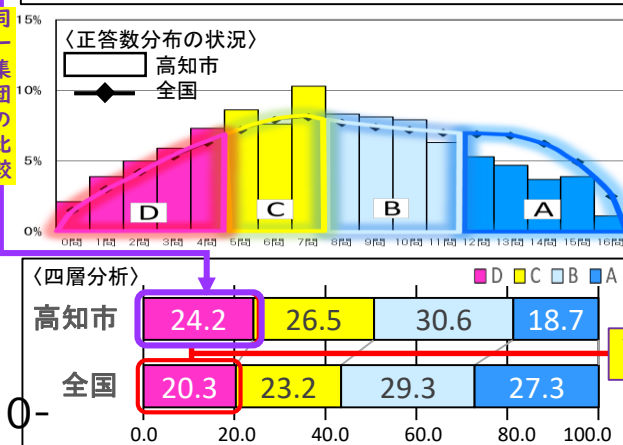
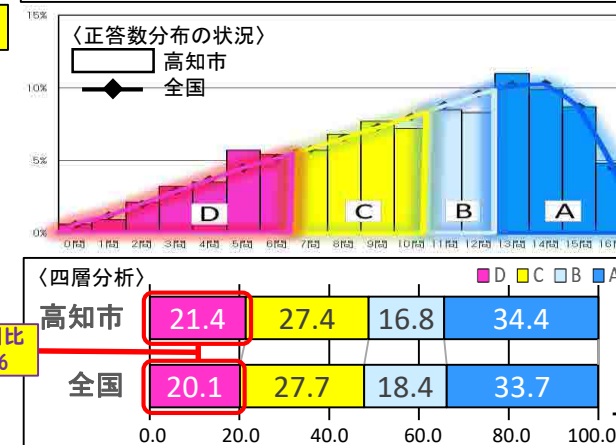
R4



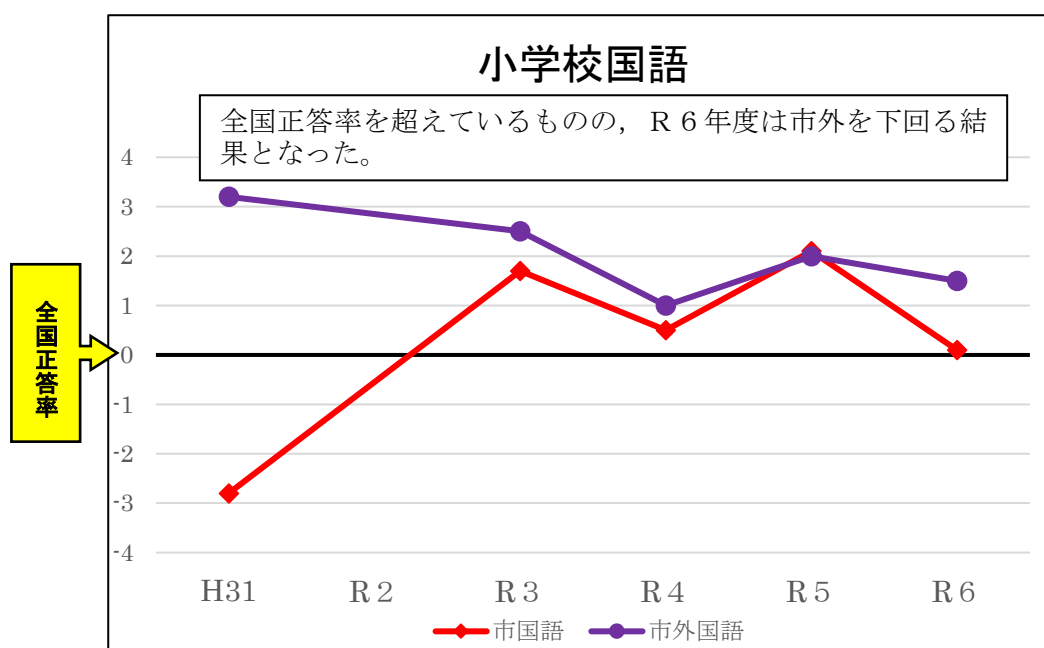
R5



R6

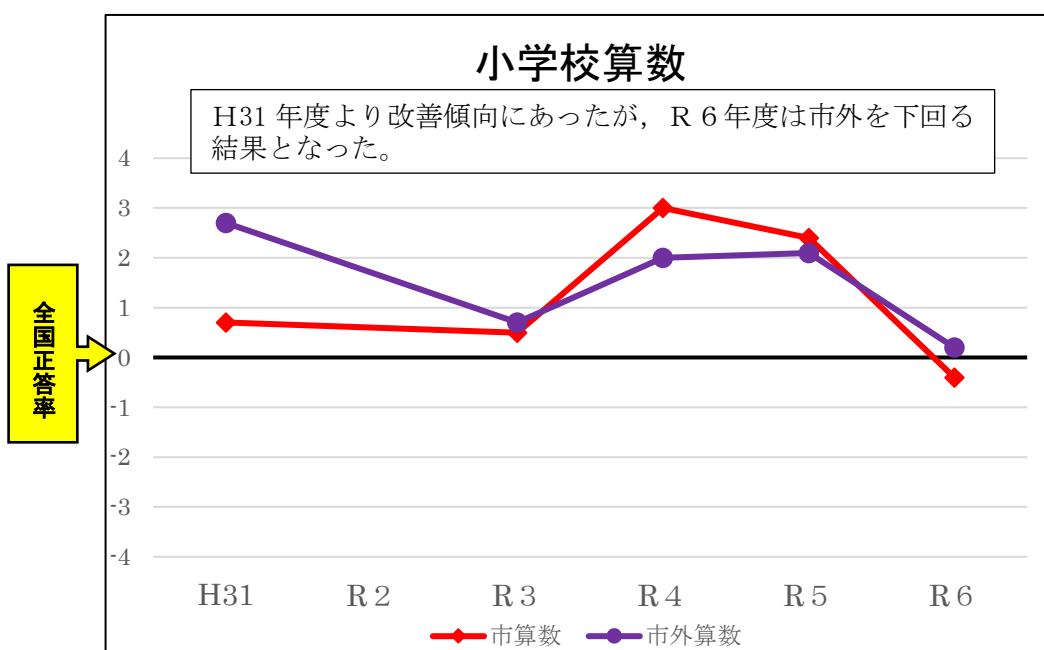


5 高知市と高知市外との正答率の差の推移（小学校）



全国平均正答率との差

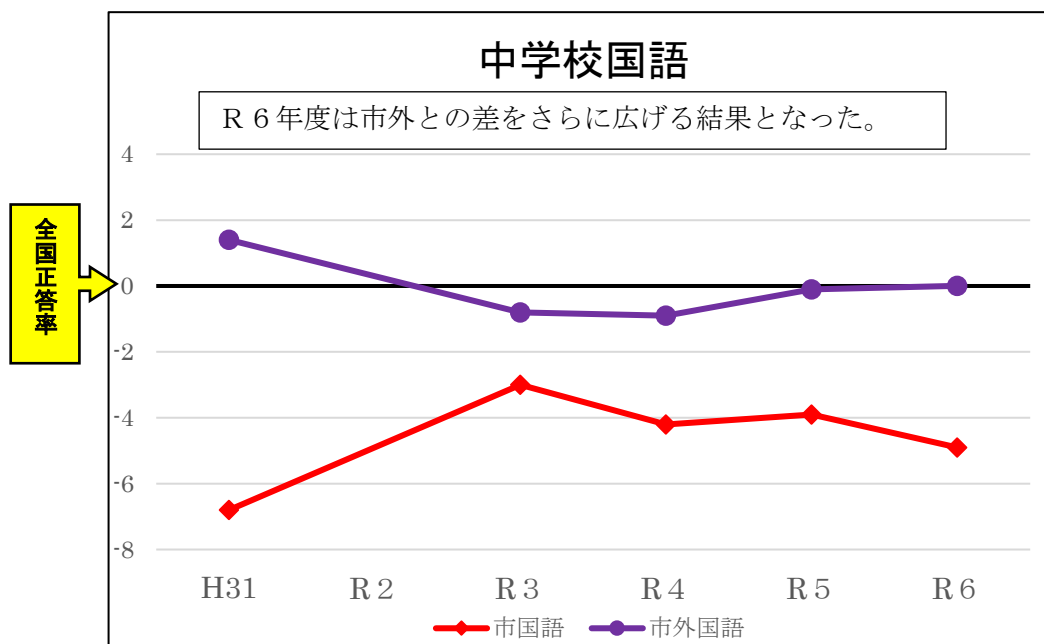
小学校	H31	R2	R3	R4	R5	R6
市国語	-2.8		1.7	0.5	2.1	0.1
市外国語	3.2		2.5	1.0	2.0	1.5
市外との差	-6.0		-0.8	-0.5	0.1	-1.4



全国平均正答率との差

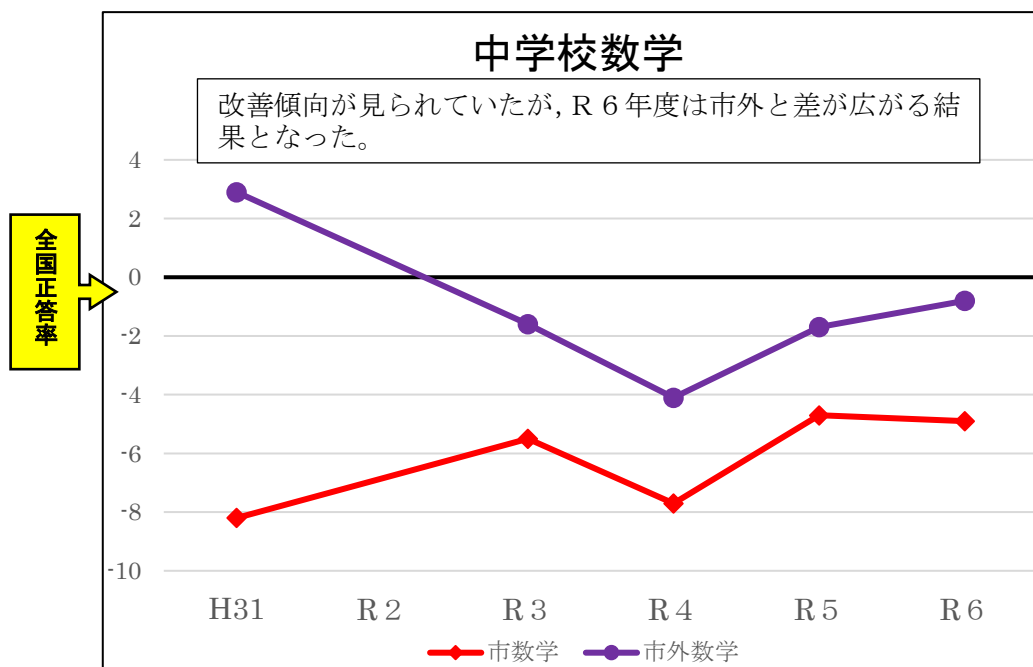
小学校	H31	R2	R3	R4	R5	R6
市算数	0.7		0.5	3.0	2.4	-0.4
市外算数	2.7		0.7	2.0	2.1	0.2
市外との差	-2.0		-0.2	1.0	0.3	-0.6

5 高知市と高知市外との正答率の差の推移（中学校）



全国平均正答率との差

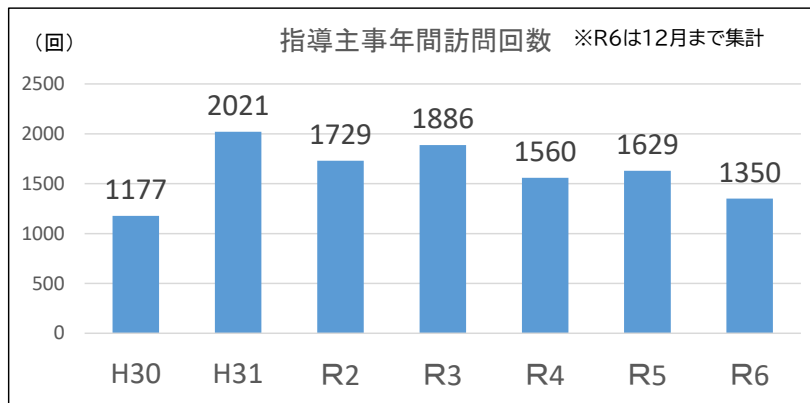
中学校	H31	R2	R3	R4	R5	R6
市国語	-6.8		-3.0	-4.2	-3.9	-4.9
市外国語	1.4		-0.8	-0.9	-0.1	0.0
市外との差	-8.2		-2.2	-3.3	-3.8	-4.9



全国平均正答率との差

中学校	H31	R2	R3	R4	R5	R6
市数学	-8.2		-5.5	-7.7	-4.7	-4.9
市外数学	2.9		-1.6	-4.1	-1.7	-0.8
市外との差	-11.1		-3.9	-3.6	-3.0	-4.1

6 H30～R6における、学力向上推進室指導主事の年間訪問回数



H30～R6における、
学力向上推進室
指導主事の訪問総回数

11,352回

年度	内訳	合計
H30	主任室員1名 室員6名	7名
H31以降	主任室員2名 室員8名	10名

※ 本資料には、学校経営計画と初任者指導に係る訪問は含まない

訪問内容	対象学校	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
組織力向上	中学校16校	23	38	38	11	3	15	26	49	41	40	54	9	347
授業改善研究指定	小学校9校	18	10	50	26	19	39	28	18	8	27	30	10	283
申請・要請訪問	小学校39校	22	19	36	37	45	46	115	79	33	46	51	18	547
合計		63	67	124	74	67	100	169	146	82	113	135	37	1177

訪問内容	対象学校	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
組織力向上・授改ブ	中17校義務2校	27	55	111	67	8	76	108	117	87	103	110	6	875
授業改善研究指定	小学校11校	17	31	60	18	17	41	61	50	8	32	42	6	383
指定事業(主対深・授改・読解)	小学校8校中学校4校	42	44	69	33	32	69	54	56	32	39	27	9	506
申請・要請訪問等	小39校中17校義務2校	11	26	28	18	23	29	52	23	4	17	26	0	257
合計		97	156	268	136	80	215	275	246	131	191	205	21	2021

訪問内容	対象学校	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
組織力向上・授改ブ	中17校義務2校	5	27	149	81	36	74	93	86	85	80	118	62	896
授業改善研究指定	小学校10校	3	4	57	28	22	31	44	43	4	6	31	10	283
指定事業(主対深・授改・読解)	小学校7校中学校3校	13	23	39	19	25	48	55	34	21	20	4	7	308
申請・要請訪問	小39校中17校義務2校	1	5	37	25	17	33	34	31	16	14	9	20	242
合計		22	59	282	153	100	186	226	194	126	120	162	99	1729

訪問内容	対象学校	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
組織力向上・授改ブ	中17校義務2校	65	89	151	58	58	80	112	111	77	77	50	2	930
授業研究指定校	小学校16校	49	49	72	34	42	36	47	69	7	34	16	2	457
指定事業(実研協・授業づくり)	小学校3校中学校5校	11	33	80	31	25	31	30	37	31	0	4	0	313
申請・要請訪問	小39校中17校義務2校	13	10	25	13	20	14	35	21	11	9	14	1	186
合計		138	181	328	136	145	161	224	238	126	120	84	5	1886

訪問内容	対象学校	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
組織力向上・授改ブ	中17校義務2校	54	92	135	63	4	107	102	104	62	80	88	22	913
授業研究指定校	小学校16校	6	10	20	5	6	21	29	29	2	0	8	1	137
指定事業(実研協・授業づくり)	小学校3校中学校5校	18	44	77	28	12	31	52	36	6	8	4	4	320
申請・要請訪問	小39校中17校義務2校	14	6	12	17	22	22	25	17	11	24	18	2	190
合計		92	152	244	113	44	181	208	186	81	112	118	29	1560

訪問内容	対象学校	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
組織力向上・授改ブ	中17校義務2校	37	95	150	64	10	117	131	124	84	135	96	16	1059
授業研究指定校	小学校16校	13	31	43	9	25	33	34	44	3	1	1	0	237
指定事業(実研協・授業づくり)	小学校3校中学校5校	4	9	26	18	10	42	25	49	7	1	0	0	191
申請・要請訪問	小39校中17校義務2校	9	7	11	10	11	4	30	15	5	18	18	4	142
合計		63	142	230	101	56	196	220	232	99	155	115	20	1629

訪問内容	対象学校	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
組織力向上・授改ブ	中17校義務2校	78	120	116	59	18	111	163	103	79				847
授業研究指定校	小学校7校中学校5校	9	17	17	35	19	36	51	26	7				217
指定事業(授業づくり)	小学校5校中学校4校	12	33	35	21	13	18	11	24	2				169
申請・要請訪問	小39校中17校義務2校	5	11	8	4	10	16	31	27	5				117
合計		104	181	176	119	60	181	256	180	93	0	0	0	1350

7 質問調査（学校・児童生徒）の高知市の結果【抜粋】

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

児童生徒質問調査

【小30・中30】これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

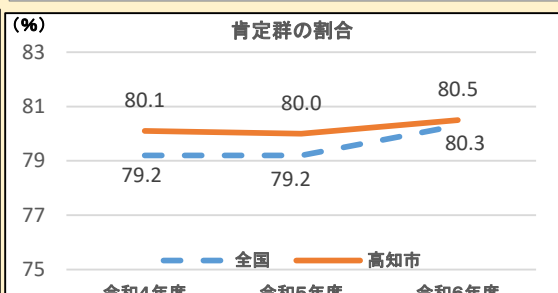
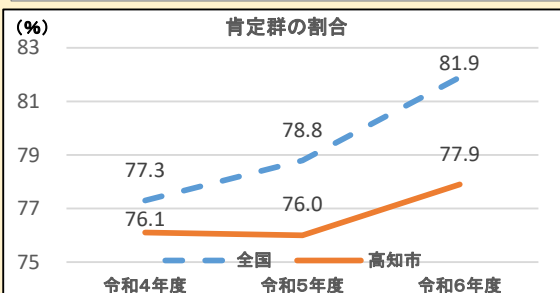
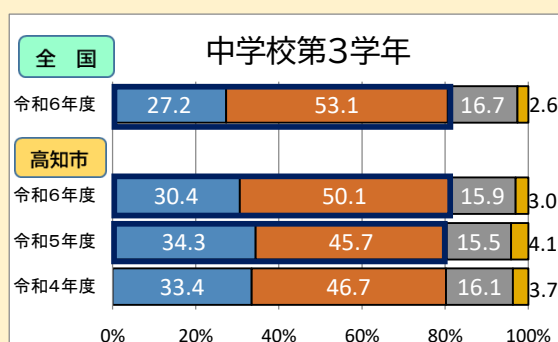
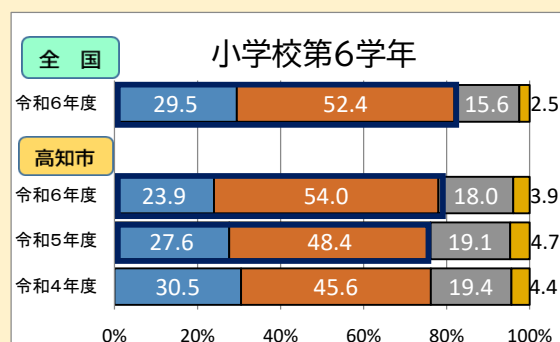
- ・ 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」肯定群の割合は、全国と比較すると、小学生では4.0ポイント下回っており、中学生では0.2ポイント上回っている。本市の令和5年度と比較すると、小学生では1.9ポイント、中学生では0.5ポイント増加している。

■ 当てはまる

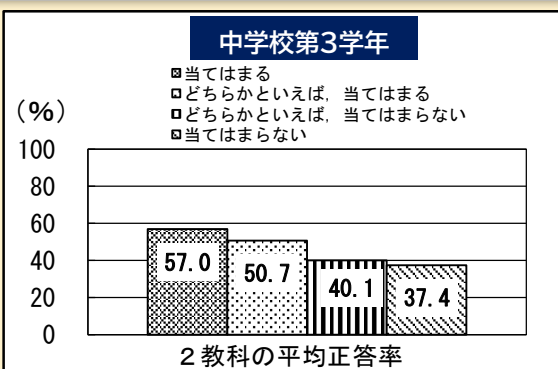
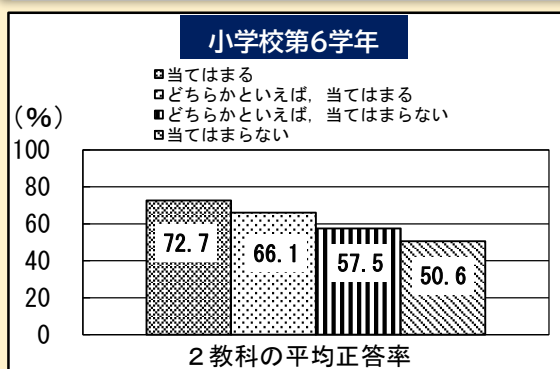
■ どちらかといえば、当てはまる

■ どちらかといえば、当てはまらない

■ 当てはまらない



質問調査と平均正答率との関連



◆課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる児童生徒は、平均正答率が高い傾向にある。特に、中学校では「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒と「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した生徒の平均正答率には10ポイント以上の差がある。

7 質問調査（学校・児童生徒）の高知市の結果【抜粋】

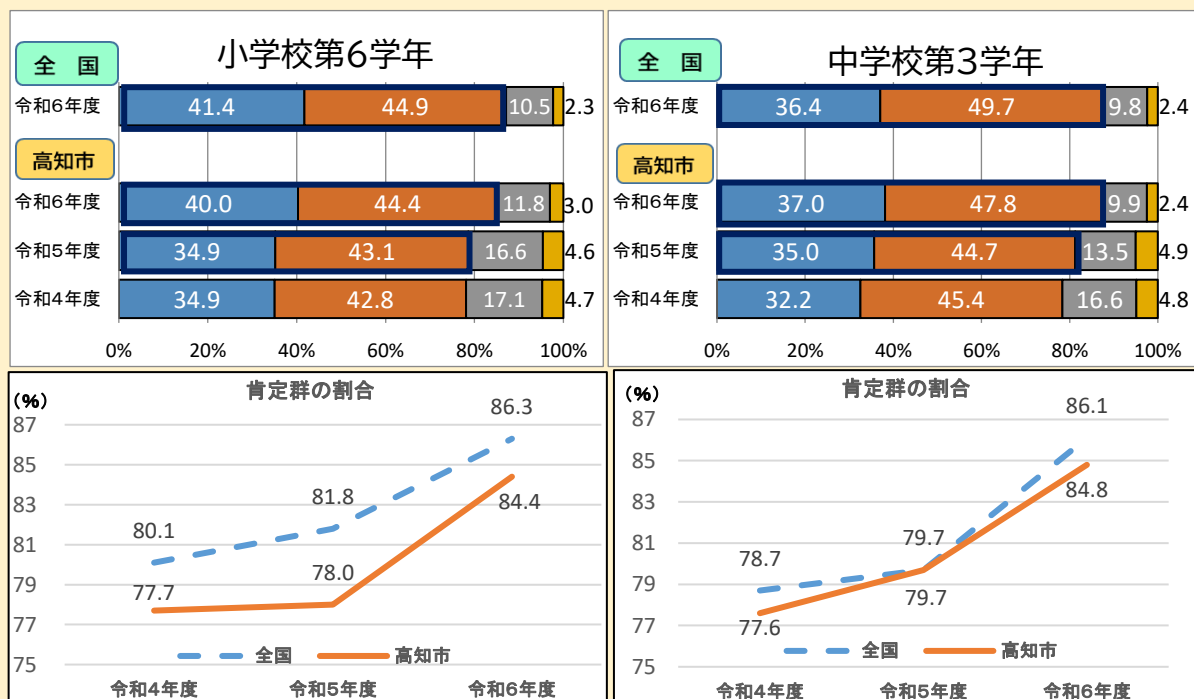
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

児童生徒質問調査

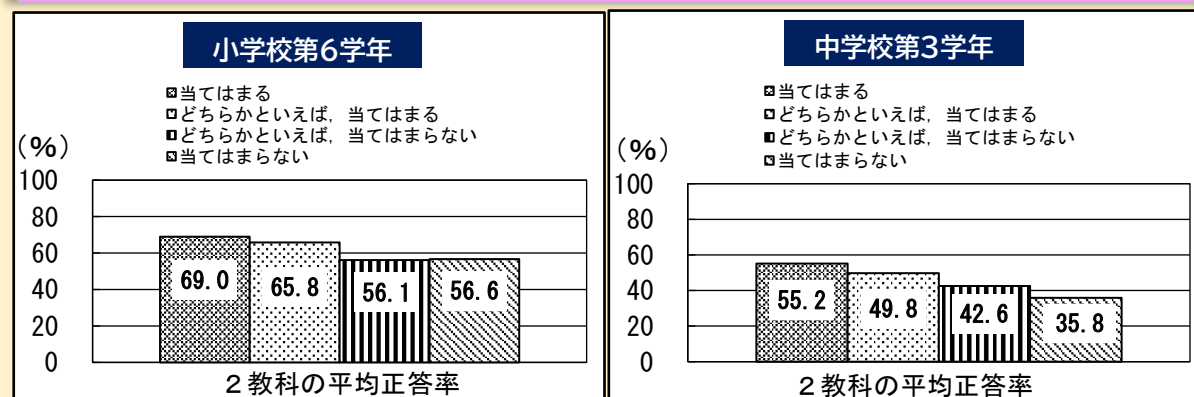
【小33・中33】学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

- ・ 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」肯定群の割合は、全国と比較すると、小学生では1.9ポイント、中学生では1.3ポイント下回っている。本市の令和5年度と比較すると、小学生では6.4ポイント、中学生では5.1ポイント増加している。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



質問調査と平均正答率との関連



◆話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりしていると肯定的に回答した児童生徒は、平均正答率が高い傾向にある。

7 質問調査（学校・児童生徒）の高知市の結果【抜粋】

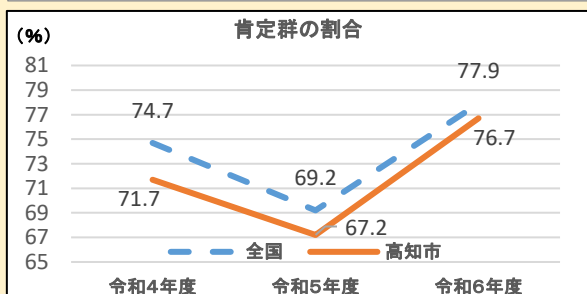
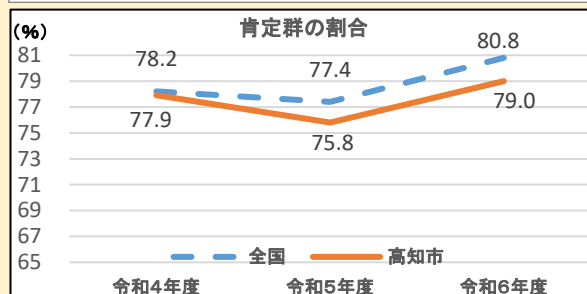
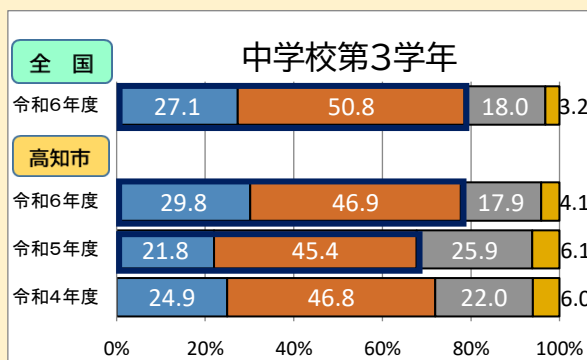
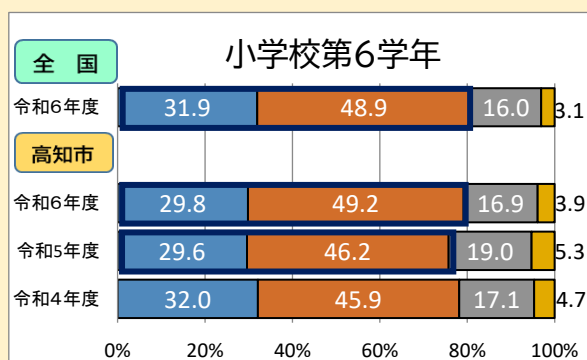
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

児童生徒質問調査

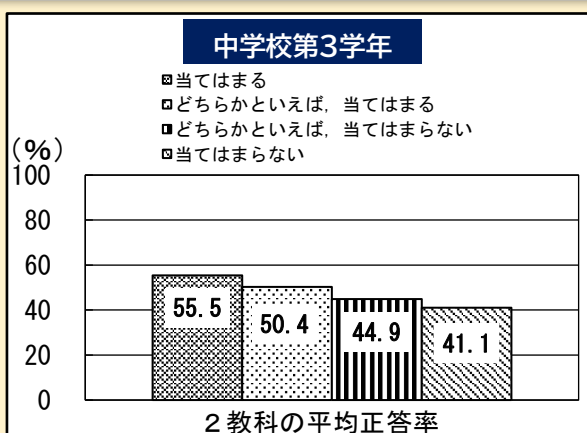
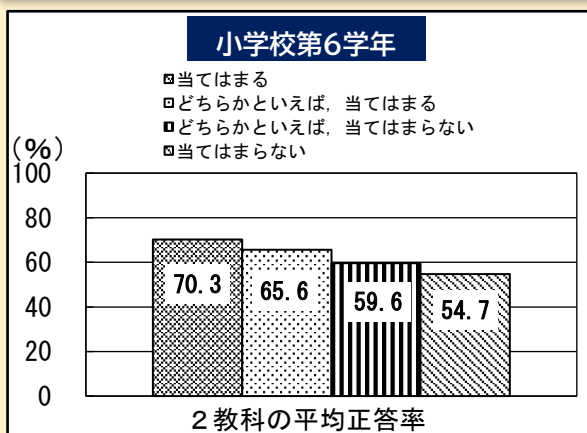
【小34・中34】学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

- 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」肯定群の割合は、全国と比較すると、小学生では1.8ポイント、中学生では1.2ポイント下回っている。本市の令和5年度と比較すると、小学生では3.2ポイント、中学生では9.5ポイント増加している。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



質問調査と平均正答率との関連



◆学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげていると肯定的に回答した児童生徒は、平均正答率が高い傾向にある。

7 質問調査（学校・児童生徒）の高知市の結果【抜粋】

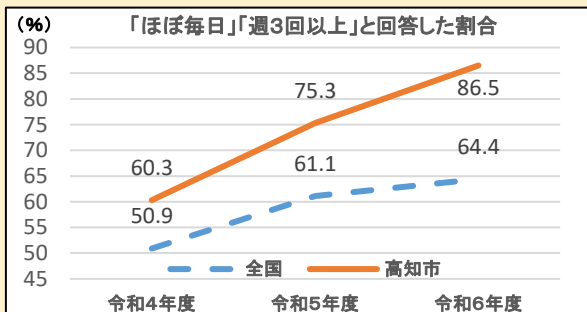
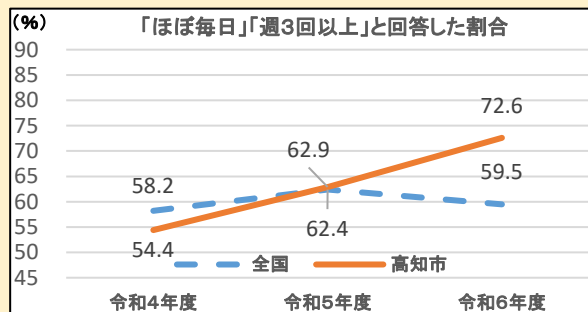
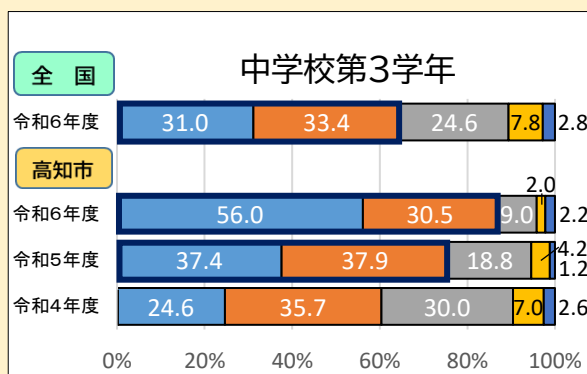
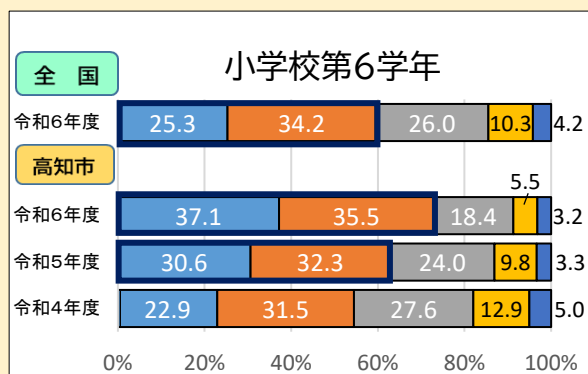
ICTを活用した学習状況

児童生徒質問調査

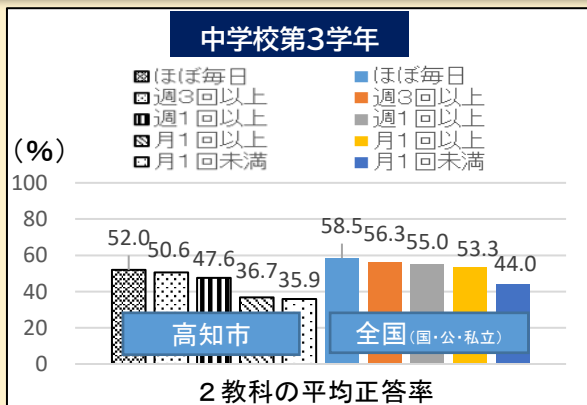
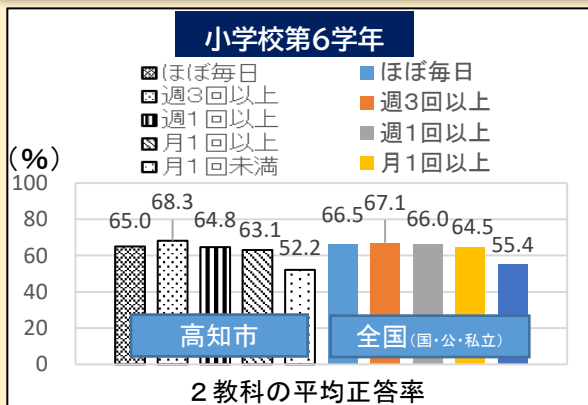
【小27・中27】これまでに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

- 「ほぼ毎日」「週3回以上」の割合は、全国と比較すると、小学生では13.1ポイント、中学生では22.1ポイント上回っている。本市の令和5年度と比較すると、小学生では9.7ポイント、中学生では11.2ポイント増加している。

■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満



質問調査と平均正答率との関連



- ◆ 中学校においては、高知市、全国ともに、ICT機器について授業の中での使用回数が多いと回答した生徒は、平均正答率が高い傾向にある。

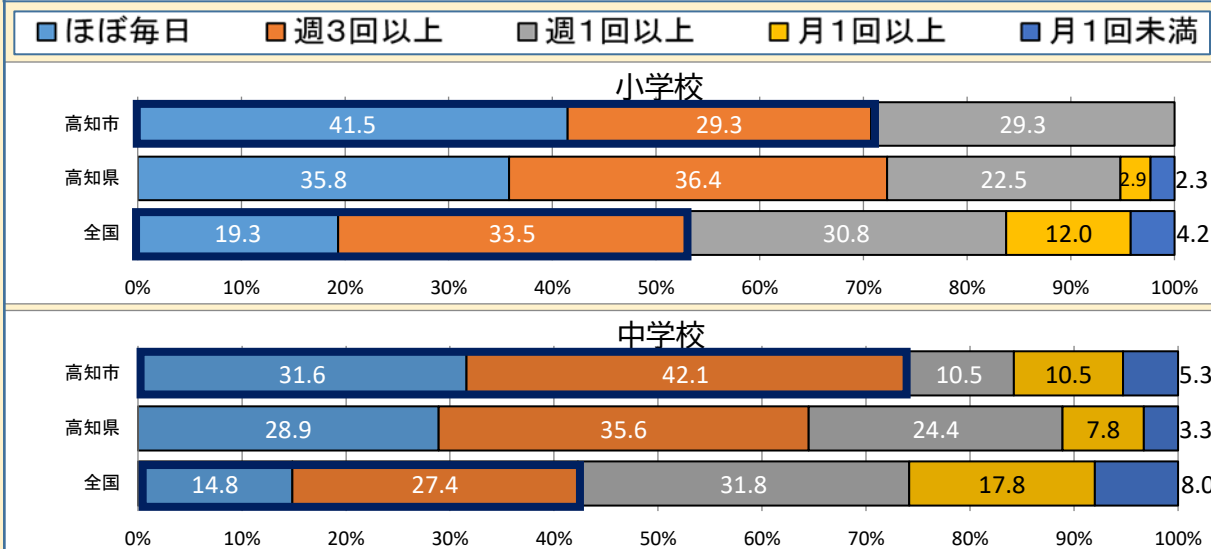
7 質問調査（学校・児童生徒）の高知市の結果【抜粋】

ICTを活用した学習状況

- 一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、自分の特性や理解度・進度に合わせて週3回以上使用する割合は、学校質問調査では、小学校が全国よりも18.0ポイント、中学校が31.5ポイント上回っている。また、児童生徒質問調査で、「PC・タブレットを活用し、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」と肯定的に回答した割合を全国と比較すると、小学校第6学年では同値であり、中学校第3学年では、5.6ポイント上回っている。

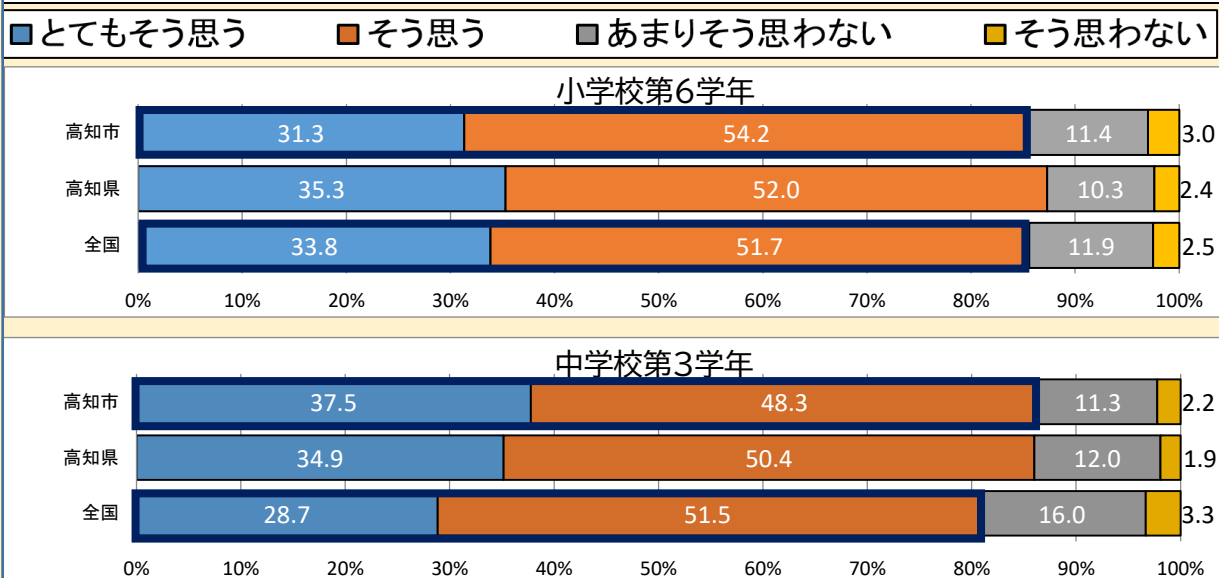
学校質問調査

【小61・中65】調査対象学年の児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用していますか



児童生徒質問調査

【小28-1・中28-1】これまでの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか
（1）自分のペースで理解しながら学習を進めることができる



7 質問調査（学校・児童生徒）の高知市の結果【抜粋】

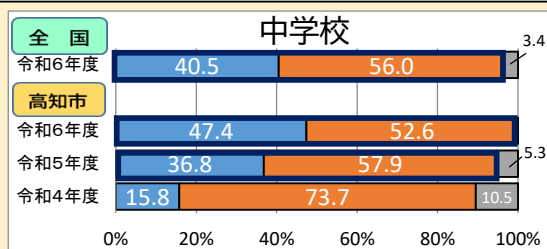
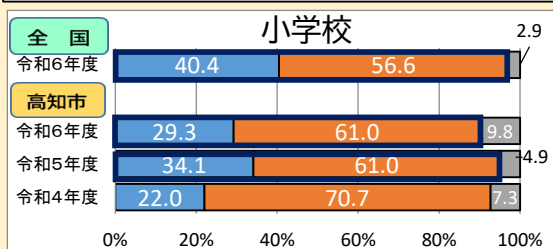
学校運営に関する状況/教職員の資質向上に関する状況

学校質問調査

【小13・中13】児童・生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

- ・ 「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した割合を全国と比較すると、小学校では6.7ポイント下回り、中学校では3.5ポイント上回っている。本市の令和5年度と比較すると、小学校では4.8ポイント減少し、中学校では5.3ポイント増加している。

■ よくしている ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない ■ 全くしていない

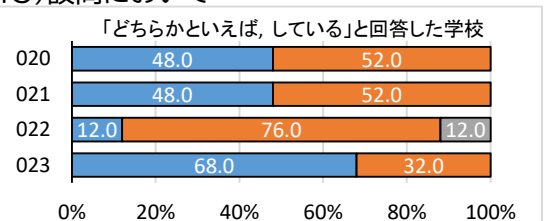
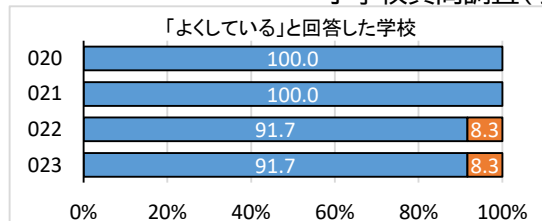


学校質問調査における他の回答状況との関連について

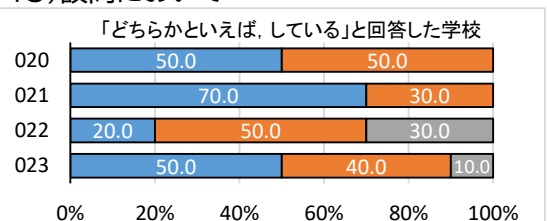
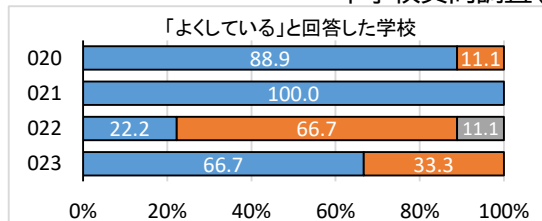
- 学校質問020 学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいますか
 学校質問021 各児童の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしていますか
 学校質問022 今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多いと思いますか
 学校質問023 教職員が困っているとき、互いに相談できる雰囲気があると思いますか

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない

小学校質問調査(小13)設問において



中学校質問調査(中13)設問において



- ◆ 「よくしている」と回答した学校では、020、021の質問に対しても「そう思う」と回答する割合が高く、組織的な取組や教職員間での情報交換が進んでいる傾向がみられる。
 小学校では、022の質問「新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多いと思う」の回答状況に大きな差がみられる。
 中学校では、023の質問「教職員が困っているとき、互いに相談できる雰囲気があるか」の回答状況に差がみられる。

7 質問調査（学校・児童生徒）の高知市の結果【抜粋】

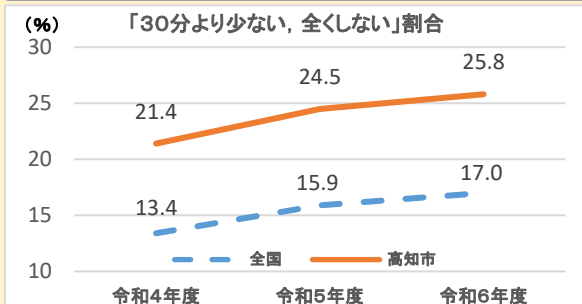
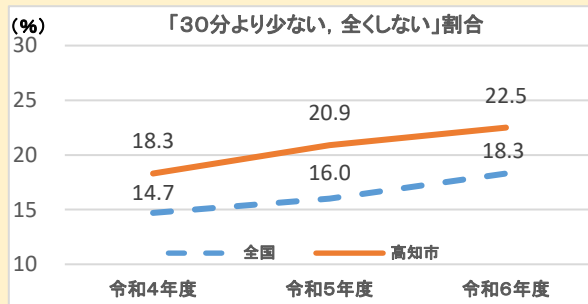
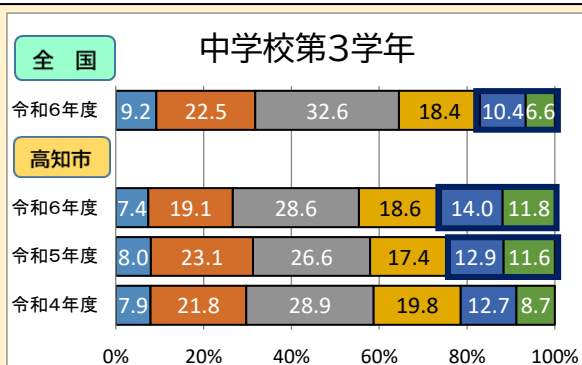
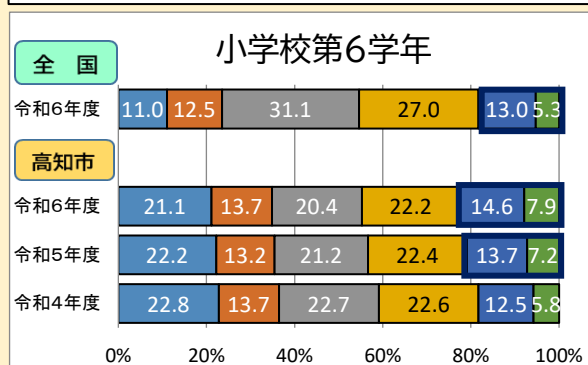
学習習慣、学習環境等

児童生徒質問調査

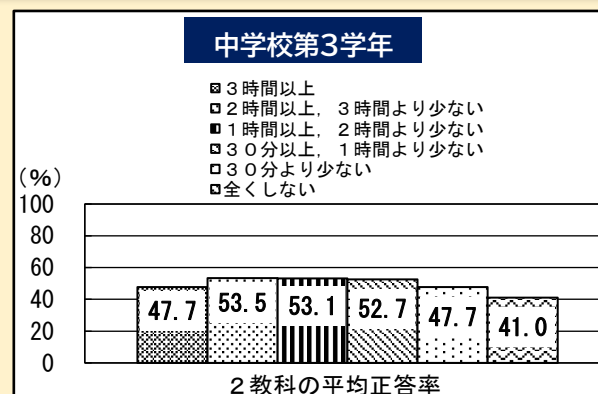
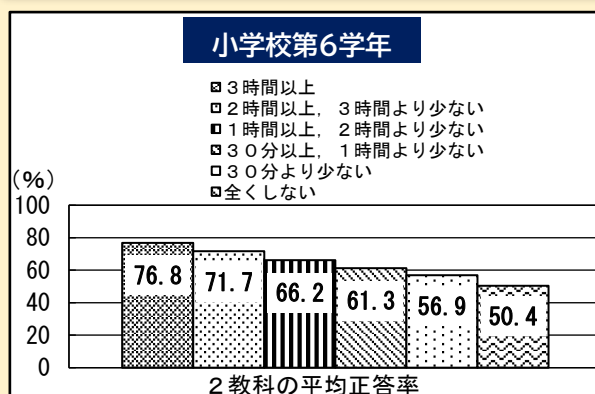
【小21・中21】学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

- ・ 学習時間が「30分より少ない、全くしない」児童生徒の割合は、全国と比較すると、小学生は4.2ポイント、中学生では8.8ポイント上回っている。本市の令和5年度と比較すると、小学生では1.6ポイント、中学生では1.3ポイント増加している。

■ 3時間以上
■ 2時間以上、3時間より少ない
■ 1時間以上、2時間より少ない
■ 30分以上、1時間より少ない
■ 30分より少ない
■ 全くしない



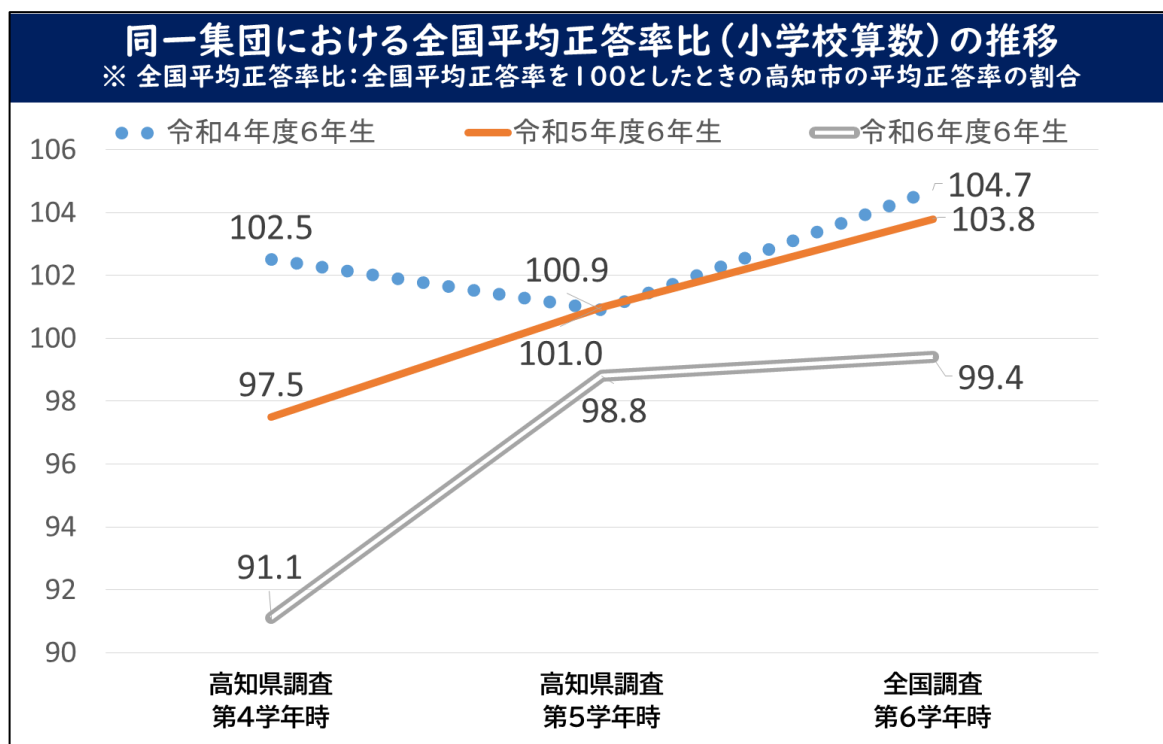
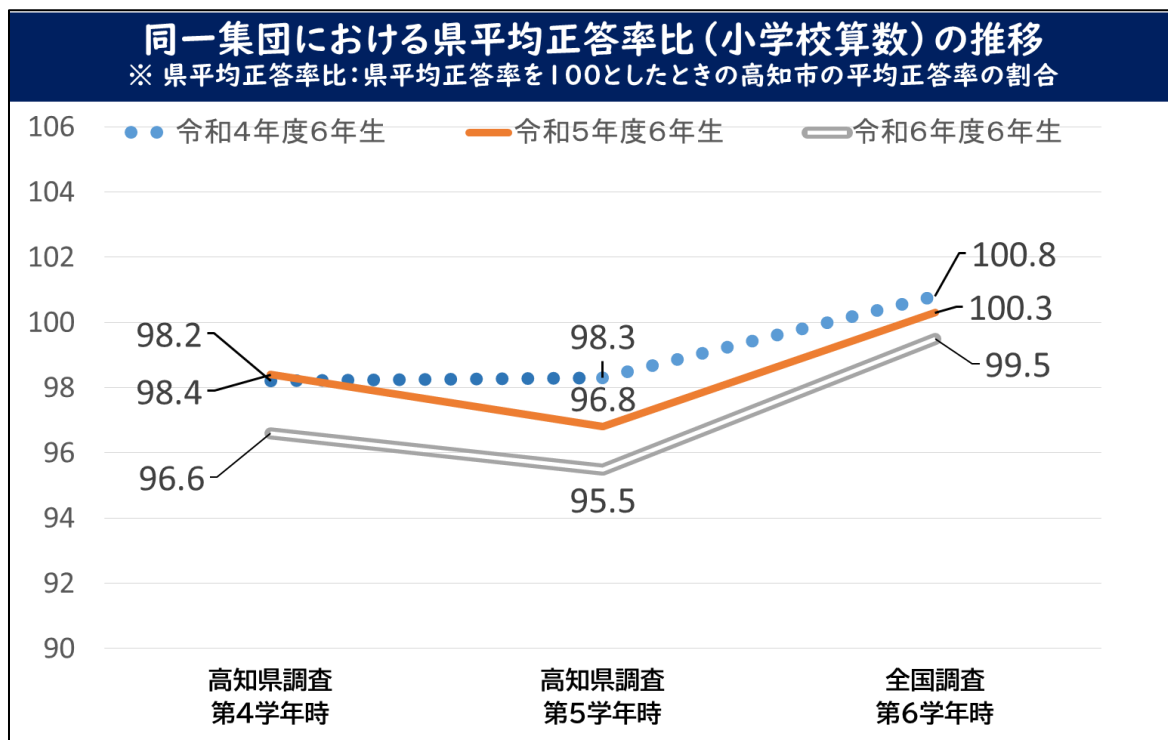
質問調査と平均正答率との関連



- ◆ 小学校では、学習時間の長さと平均正答率の間に相関関係が見られる。
- ◆ 中学校では、「全くしない」と回答した生徒の平均正答率は、最も低くなっている。

8 同一集団の推移（小学校算数）

- 同一集団における県平均正答率比の推移では、第4学年から第6学年にかけて、第5学年時には低くなっていても、第6学年時には高くなっている。
- 同一集団における全国平均正答率比の推移では、令和5、6年度の6年生は4年、5年、6年と学年が上がるにつれ、正答率比が高くなっている。

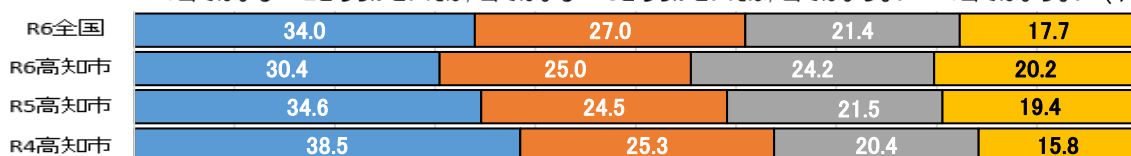


9 児童質問調査からみられる小学校算数の課題

課題Ⅰ

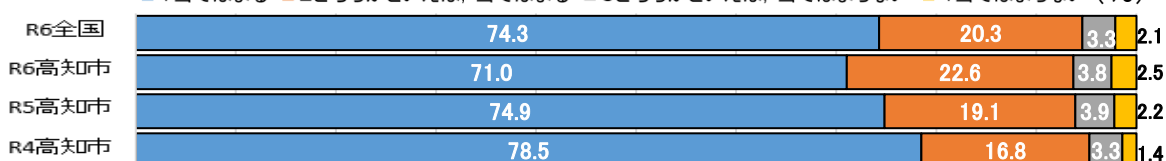
児童質問調査（50）算数の勉強は好きですか

■ 1当てはまる ■ 2どちらかといえば、当てはまる ■ 3どちらかといえば、当てはまらない ■ 4当てはまらない（％）



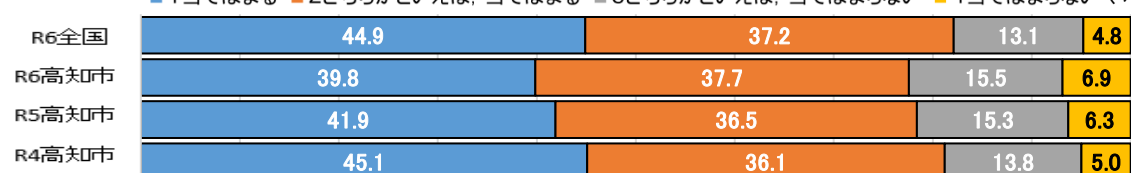
児童質問調査（51）算数の勉強は大切だと思いますか

■ 1当てはまる ■ 2どちらかといえば、当てはまる ■ 3どちらかといえば、当てはまらない ■ 4当てはまらない（％）



児童質問調査（52）算数の授業の内容はよく分かりますか

■ 1当てはまる ■ 2どちらかといえば、当てはまる ■ 3どちらかといえば、当てはまらない ■ 4当てはまらない（％）



●「算数の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答した児童の割合は、令和4年度から減少傾向にある。また、「算数の勉強は大切だと思いますか」に対して肯定的に回答した児童の割合は90%を越えている。一方で、「算数の授業の内容はよく分かりますか」の回答では、肯定的に回答した割合は減少傾向にある。

➡ 授業では、一人一人の児童に応じた適切な手立てや指導を工夫して「わかる」「できる」という実感をもたせながら資質・能力の確実な定着を図る。また、算数で解決することのよさや価値を実感できるような学習展開の工夫等、数学的な活動を充実させる取組が必要である。

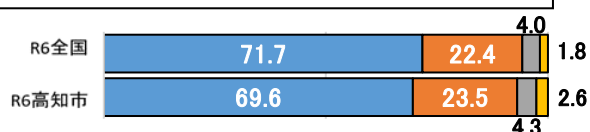
課題Ⅱ

学校質問調査（45）算数の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか

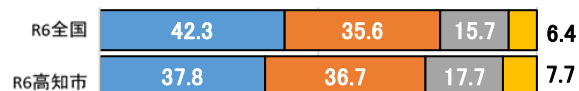


■ 1当てはまる ■ 2どちらかといえば、当てはまる ■ 3どちらかといえば、当てはまらない ■ 4当てはまらない（％）

児童質問調査（53）
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



児童質問調査（54）
算数の授業で学習したことを、普段の学習の中で活用できないか考えますか



●学校質問調査「実生活における事象との関連を図った授業を行ったか」に対する肯定的回答は全国よりやや下回っているが、87.8%である。児童質問調査「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」では93.1%が肯定的に回答しているが、「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える」に対する肯定的回答は74.5%である。

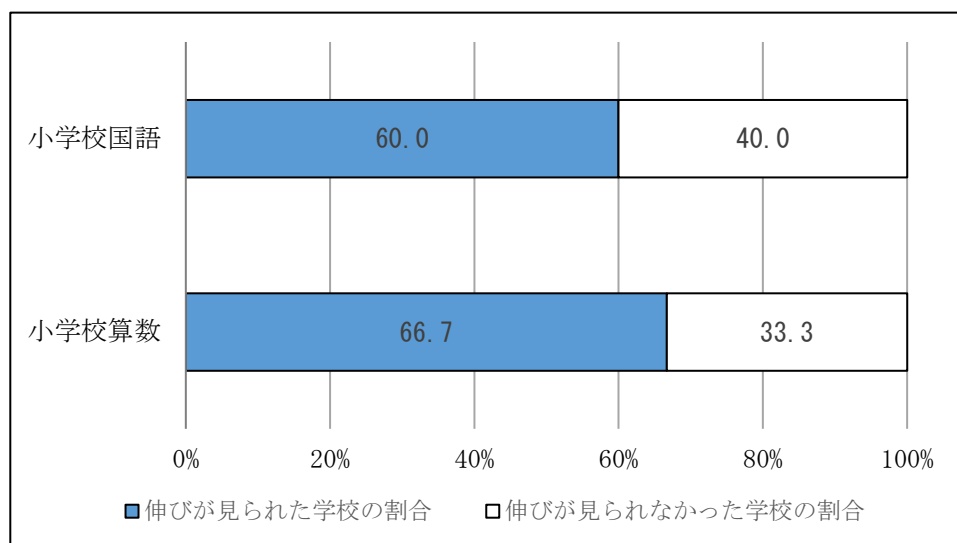
➡ 何を学ぶのか、どんな力が付くのか理解できるように明確な目標設定や単元構想、また、日常生活と算数を関連付けた授業改善が必要である。

10 H31～R5 年度の授業づくり講座拠点校における成果

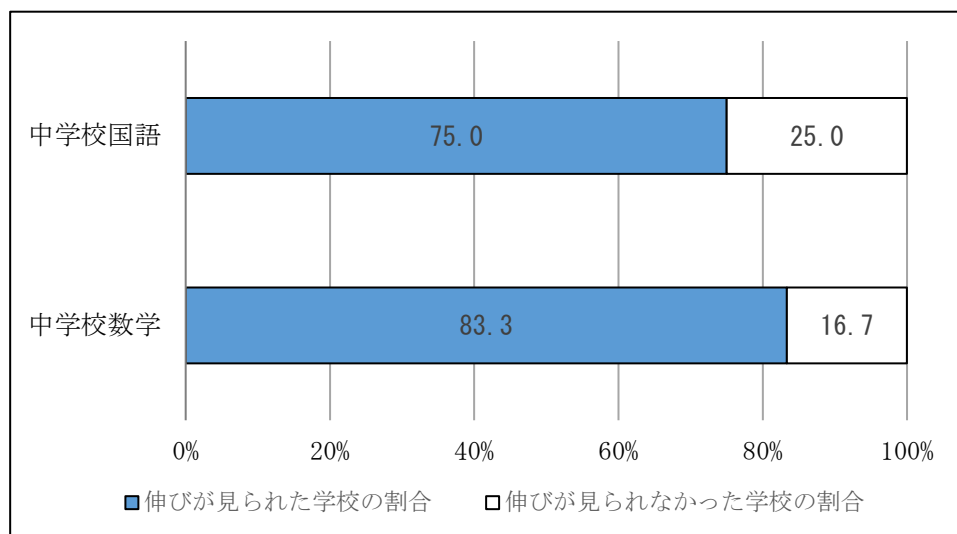
拠点校の指定を受けた学校の次年度の全国学力・学習状況調査において、全国平均正答率との差に伸びが見られた割合

- 小学校では、授業づくり講座の拠点校において、国語で 60.0%，算数で 66.7%の学校で、学力向上の成果が見られた。
- 中学校では、授業づくり講座の拠点校において、国語で 75.0%，数学で 83.3%の学校で、学力向上の成果が見られた。

【小学校】



【中学校】



1. 学校経営計画に基づく訪問

○学校経営計画に基づく組織的な学校運営に対しての指導・助言

2. 初任者育成に向けての指導訪問

○若年教員育成や組織体制づくりへの指導・助言

3. 組織力向上事業推進事業

小学校

○組織的な授業研究体制づくりに向けた指導・助言

○小中9年間を見据えた指導体制の充実に向けた指導・助言

中学校

○主幹教諭、教科主任の指導力向上及び人材育成についての指導・助言「タテ持ち」型

○教科の枠を越えたチーム会の活性化「教科間連携」型

○組織力向上エキスパートによる訪問

○高知市主幹教諭等連絡会

○中学校授業実践力向上研修会

4. 資質・能力を育む「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指す授業研究指定校事業 **改定**

○学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりの実現に向け、一人一人の子供に応じた学びを一層充実させるため、「資質・能力を育む『個別最適な学び』と『協働的な学び』の実現を目指す授業研究指定校」について、GIGA スクール推進プロジェクトチームと協働し、教材分析や授業研究に向けての指導・助言

○組織的な授業研究体制づくりに向けた指導・助言

5. 令和の授業を創る推進プロジェクト

令和の授業づくり講座

○情報活用能力に着目した問題解決の過程を通した学習の提案・実践に積極的に取り組む学校を対象に、教材分析や授業研究について指導・助言

教育 DX

○クラウドを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業づくりに積極的に取り組む学校を対象に GIGA スクール推進プロジェクトチームと協働し、教材分析や授業研究について指導・助言

6. 英語教育強化推進事業

○学習指導要領の趣旨に沿った外国語教育の具現化に向けて、各学校では組織的な取組や研究を通じた授業改善への指導・助言

7. 高知の魅力発信グローバル人材育成事業

○小・中・高の学びをつなぎ、英語での発信力を身に付ける授業づくりへの指導・助言

8. 令和の学校教育を考える推進会議（授業の見方を鍛える研修）

○公開する授業づくりへの指導・助言

9. 小中の学びをつなぐスキルアップ講座

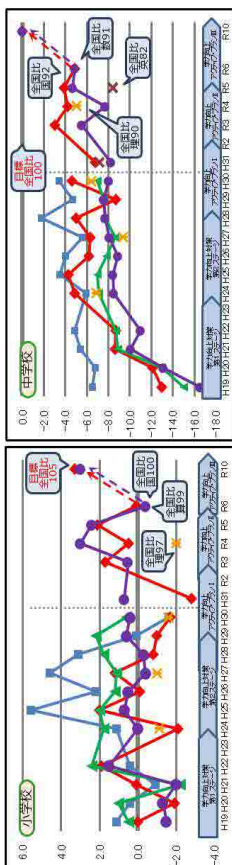
○義務教育9年間を見通した系統的な学習指導の充実に向けての指導・助言

10. 授業改善プランに基づく学校訪問

○学力調査等で明らかとなった課題解決、資質・能力の育成を目指した組織的、計画的な授業改善の一層の充実を目指した授業づくり等への指導・助言

学力向上グラントデザイン

学力向上グラントデザイン（全国平均との差）



【全国学力・学習状況調査】

小学校・義務教育学校前期課程
中学校・義務教育学校後期課程



【全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査「自分にはよいところがある」】

小学校・義務教育学校前期課程
中学校・義務教育学校後期課程

●課題●

全国学力・学習状況調査において、令和6年度の到達目標である小学校全国比105、中学校全国比100に達していない。特に、中学校において、学力の状況をA層からD層に分けた4層分析では、D層の生徒の割合が高く、中位層から下位層の学力の底上げが喫緊の課題となっている。さらに、令和5年度、4年ぶりに実施された英語においては、全国平均正答率8.4ポイントと、平成31年度（4年前）の7.2ポイントと比較しても全国との差が縮小されていないことなど課題が見られた。

このように美観から、今後も、組織的な授業改善をより一層推進するとともに、デジタルの力を最大限に活用しながら、児童生徒一人一人の資質・能力を育むための「個別最適な学びと協働的な学び」の充実・促進に向け、学校支援にあたっていく。

目標達成に向けた3つのDesign

Design1 組織的なPDCAサイクルの確立

(1) 学校経営計画に基づくPDCAサイクルの確立

○学校運営のシステムにPDCAサイクルを位置付け、学校教育目標の実現に向けた組織的な取組を充実させる。特に、C（評価）A（改善）を強化することで、各学校の確実な課題改善につなげる。

(2) 小中学校における学力向上への取組計画及び中学校における授業改善プランを活用した検証改善サイクルの確立

○小学校において、全国学力・学習状況調査及び高知県学力定着状況調査を学力向上に向けた取組の検証の機会として学力向上への取組計画にPDCAサイクルを位置付け、検証改善サイクルの充実を図る。

○中学校において、学校教育目標の実現のために、教科共通の取組及び教科独自の取組目標を設定し、各教科における検証改善サイクルの充実を図る。



Design2 持続可能な校内研究体制の構築

(1) 課題解決に向けて、教育の質を高めていくチーム学校の推進・強化

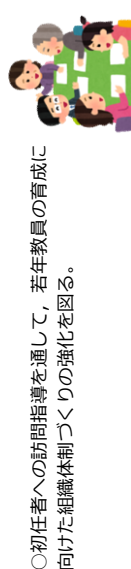
○小学校において、初任者をはじめとする若年教員を中心としたメンターチームを編成し、日常的なOJTの活性化を図る。

○中学校において、ライン機能のさらなる強化のために、「タデ持ち」型、「教科間連携」型の体制による教科会及びチーム会の充実を図る。

(2) 組織的な授業改善及び人材育成を図る校内研究体制の構築

○学校の課題解決に向けて、主幹教諭・研究主任等が中心となり、各主任と連携して研究を推進する研究体制づくりへの支援を行う。

○学校教育目標の実現に向けて、校内研究の推進を図る人材を育成するために、研修会の企画・運営についての指導・助言を行い、校内研究の活性化を図る。



Design3 資質・能力の確実な育成

(1) 学習指導要領の趣旨に沿った取組の充実・促進

○デジタルの力を活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、主体的対話的で深い学びに向けた授業改善を行うと同時に、学習評価の充実・改善を図る。この取組を通して、より質の高い学びを実現し、資質・能力の育成を確実なものにしていく。

○子供一人一人の資質・能力の育成に向けて、学校におけるカリキュラム・マネジメントの充実・強化を図る。この取組を通して、子供たち一人一人の学びを保障していく。

(2) 資質・能力の確実な定着に向けたデジタルの力の活用

○デジタルの力を活用しながら子供たちの「わかる」「できる」「往々」を図り、資質・能力の育成を目指す。このような学習を通して、自己肯定感をもたせ、学びに向かう意欲の醸成や新たな課題に挑戦する態度の育成につなげていく。

○子供自らが問題意識をもって課題に取り組み、1人1人1台端末を活用した「課題型持ち帰り」を推進し、「授業と家庭学習の往々」による探究的な学びを推進していく。

第Ⅱ期学力向上 アクティブ・プラン

Active1 組織的なPDCAサイクルの確立

- メンター制を活用した人材育成
- 中学校における「タデ持ち」型、「教科間連携」型の体制によるライン機能の強化
- 小学校における「学力向上への取組計画」及び中学校における「授業改善プラン」に基づく取組の充実

Active2 各校の学力向上の取組への推進

- 学校教育課による訪問指導の充実
- 教育研究所による研修及び訪問指導
 - 若年教員集合研修及び訪問指導の実施
 - 指導力向上に向けた研修の実施

Active3 学習指導要領の趣旨に沿った取組の充実

- ICTを効果的に活用した学習活動の充実
 - 電子黒板やデジタル教科書の効果的な活用
 - 1人1台端末での高知県版学習プラットフォームの活用推進
- 外国語教育の充実
 - 外国語青年招致事業
 - 英語教育強化推進事業

高知市における不登校の状況について

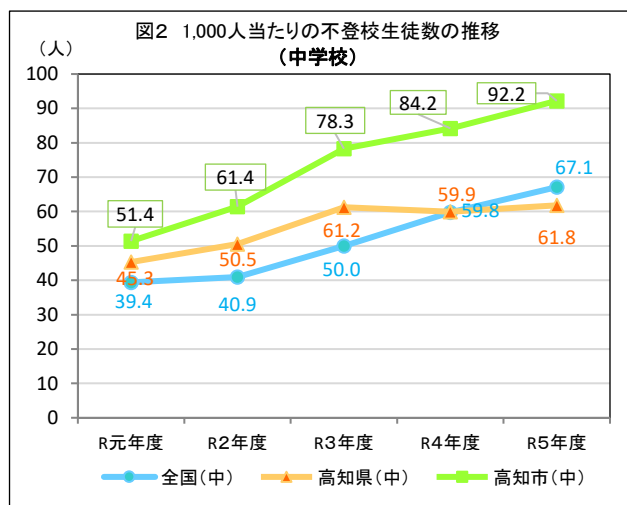
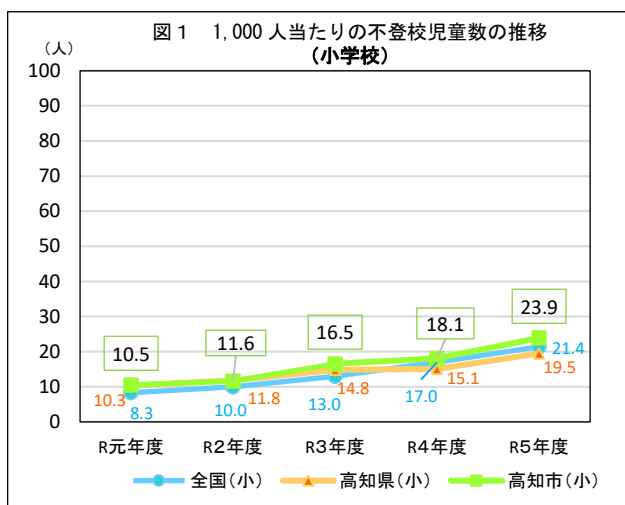
高知市教育研究所

※ 下記の表及び図の数値については、「高知市欠席児童生徒調査」及び「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（文部科学省）によるものである。なお、以下に記載する「小学校」は義務教育学校前期課程、「中学校」は義務教育学校後期課程を含むものである。

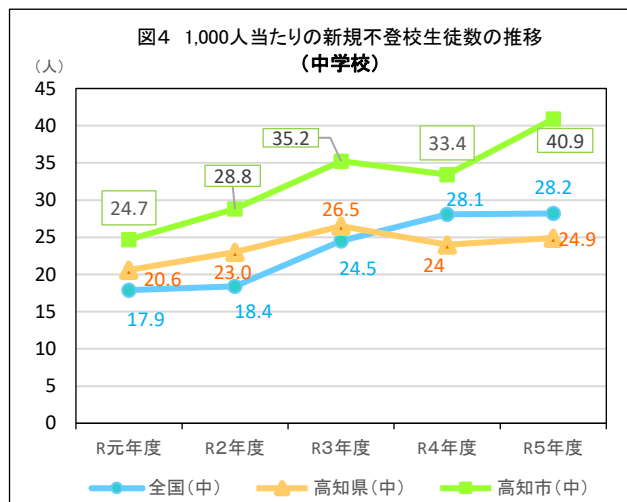
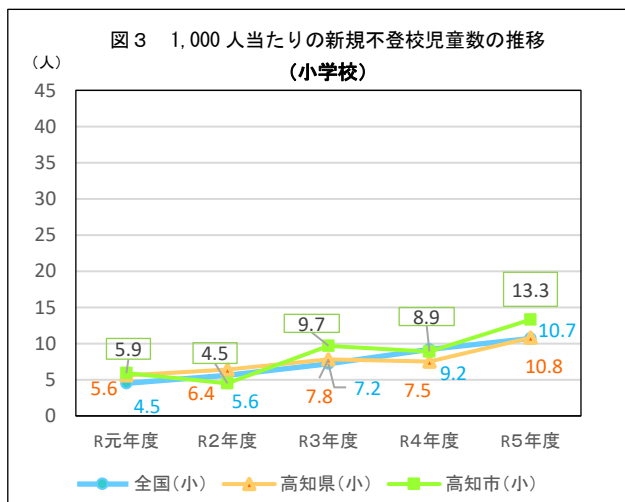
1 1,000人当たりの不登校児童生徒数の推移(高知市立小・中学校) ※ 数値は、国調査に基づく経年変化

- ・ 不登校児童生徒数は、小学校では全国と同程度、中学校では全国との差が大きい。令和5年度では過去5年間で小・中学校ともに最多となり、大変厳しい状況が続いている。
- ・ 令和5年度は、新規不登校児童生徒数が前年度と比較し増加に転じている。

(1) 1,000人当たりの不登校児童生徒数の推移【令和元年度～令和5年度】



(2) 1,000人当たりの新規不登校児童生徒数の推移【令和元年度～令和5年度】



2 不登校の要因把握に向けた令和 5 年度市調査結果

調査目的	不登校状態にある児童生徒への支援策や不登校の予防を検討する上で、その要因や実態を把握するため。
調査対象	令和 5 年度の高知市立小・中・義務教育学校 60 校
調査時期	令和 6 年 3 月
調査内容	令和 5 年度の不登校の状態にある児童生徒に関わって、「無気力」「不安」を要因とした場合に、その状態を引き起こしていると思われる背景について、①～⑬の項目から複数回答形式により調査するもの。

○「無気力」、「不安」の状態を引き起こしたと思われる背景（R5市調査）※ 複数回答

【小学校】

- ・ 本市の小学校では、「無気力」の背景については、「学業の不振」、「生活リズムの乱れ」、「親子の関わり方」が多くなっている。
- ・ 「不安」の背景については、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」、「学業不振」、「親子の関わり方」が多くなっている。
- ・ 「その他」については、具体的な内容として、集団の苦手意識、環境変化、感覚過敏、アレルギー等が複数挙げられている。

表 1 無気力

① いじめ	② 関係をめぐる 友人関係の問題	③ 教職員との 関係の問題	④ 学業の不振	⑤ 進路に係る不安	⑥ クラブ活動・部活動等への不適応	⑦ 学校の決まり等をめぐる問題	⑧ 入学・転編入学、進級時の不適応	⑨ 家庭の生活環境の急激な変化	⑩ 親子の関わり方	⑪ 家庭の不和	⑫ 生活リズムの乱れ	⑬ あそび、非行	その他
0	3	2	14	0	0	3	1	1	8	1	11	0	11

表 2 不安

① いじめ	② 関係をめぐる 友人関係の問題	③ 教職員との 関係の問題	④ 学業の不振	⑤ 進路に係る不安	⑥ クラブ活動・部活動等への不適応	⑦ 学校の決まり等をめぐる問題	⑧ 入学・転編入学、進級時の不適応	⑨ 家庭の生活環境の急激な変化	⑩ 親子の関わり方	⑪ 家庭の不和	⑫ 生活リズムの乱れ	⑬ あそび、非行	その他
3	21	2	11	0	1	3	1	2	11	3	8	0	49

【中学校】

- ・ 本市の中学校では、「無気力」の背景については、「生活リズムの乱れ」、「学業の不振」が多くなっている。
- ・ 「不安」の背景については、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」、「学業不振」が多くなっている。
- ・ 「その他」については、具体的な内容として、対人関係、人一倍繊細で人にどう思われているのか不安、人前で食べられない、人前での自己表現が苦手等の複数挙げられている。

表 3 無気力

① いじめ	② 関係をめぐる 友人関係の問題	③ 教職員との 関係の問題	④ 学業の不振	⑤ 進路に係る不安	⑥ クラブ活動・部活動等への不適応	⑦ 学校の決まり等をめぐる問題	⑧ 入学・転編入学、進級時の不適応	⑨ 家庭の生活環境の急激な変化	⑩ 親子の関わり方	⑪ 家庭の不和	⑫ 生活リズムの乱れ	⑬ あそび、非行	その他
1	11	1	22	2	1	2	2	1	9	4	46	5	17

表 4 不安

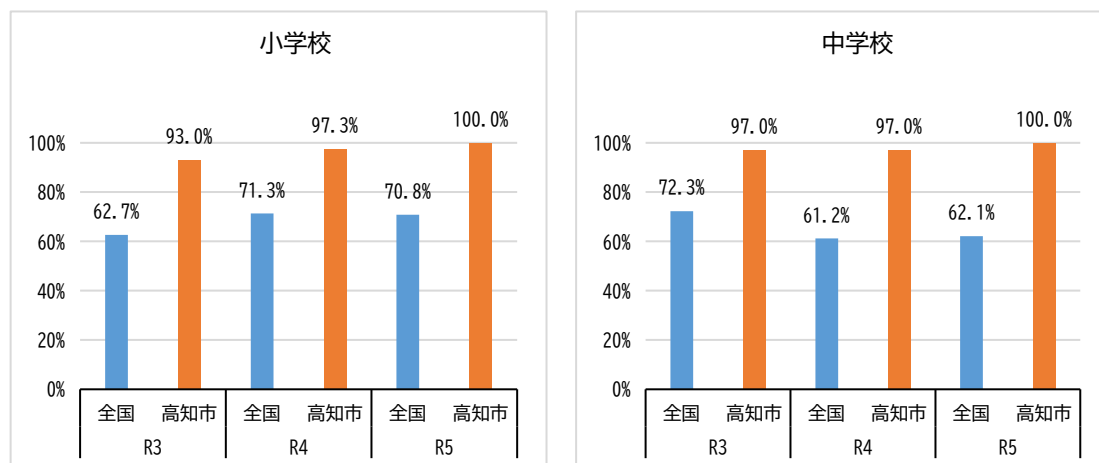
① いじめ	② 関係をめぐる 友人関係の問題	③ 教職員との 関係の問題	④ 学業の不振	⑤ 進路に係る不安	⑥ クラブ活動・部活動等への不適応	⑦ 学校の決まり等をめぐる問題	⑧ 入学・転編入学、進級時の不適応	⑨ 家庭の生活環境の急激な変化	⑩ 親子の関わり方	⑪ 家庭の不和	⑫ 生活リズムの乱れ	⑬ あそび、非行	その他
1	43	2	24	3	3	4	7	2	8	4	10	0	74

3 不登校児童生徒への支援状況

- ・ 本市では、学校内外の専門職による相談や支援を受けている児童生徒の割合は、小・中学校とも全国値を上回っている。
- ・ 担任一人が抱え込むことなく、不登校支援委員会等を通じて養護教諭やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどにつながることができている。
- ・ 学校外の関係機関では、教育支援センターや病院、子ども家庭支援センター等につながる児童生徒が多く、学校と連携を図りながら支援を行っている。

(1) 関係機関等支援率

図5 学校内外の機関等で専門的な相談・指導等を受けた不登校児童生徒の割合（欠席日数が90日以上の子）

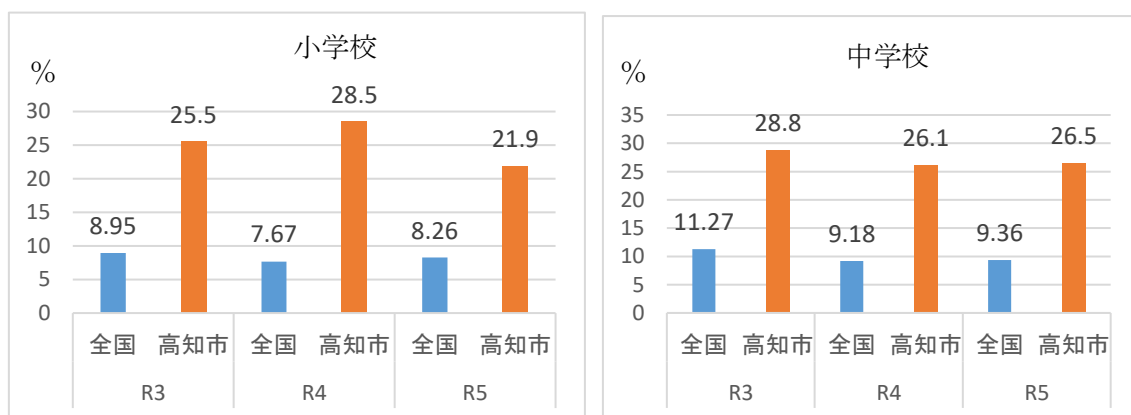


※ 「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（文部科学省）に基づき、学校内外の機関等とは、教育支援センター、児童相談所、病院、養護教諭、スクールカウンセラー等の相談員等を指す。

(2) 教育支援センターにおける支援状況

- ・ 不登校児童生徒の中で「教育支援センター」で支援を受けている割合は、小・中学校とも全国値の約3倍となっている。
- ・ 近年、小学校児童の相談・支援が増加している。

図6 不登校児童生徒の中で「教育支援センター」で支援を受けている割合



4 校内サポートルームにおける支援状況

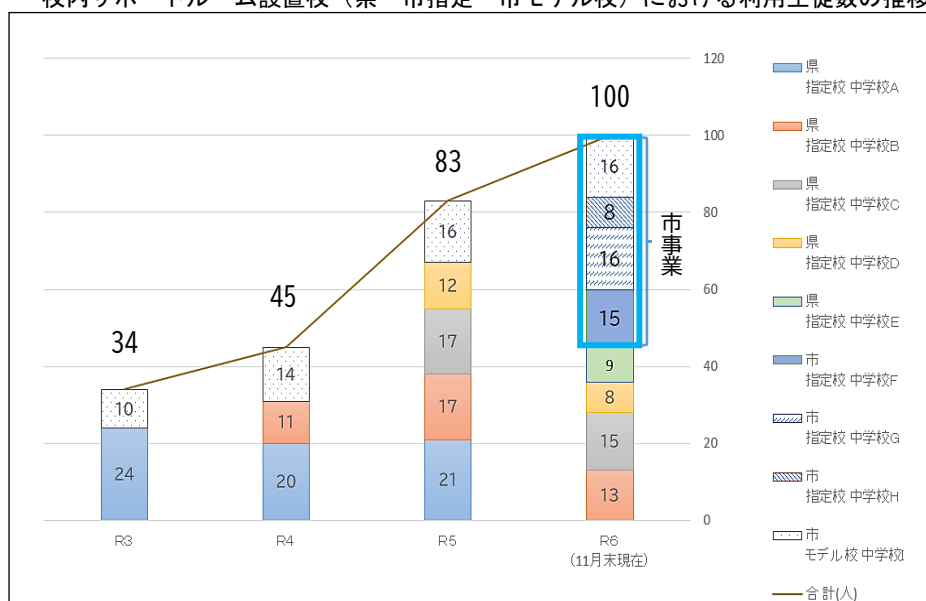
- ・ 設置したどの中学校においても、校内サポートルームを利用する生徒は多く、不登校生徒の居場所となっている。
- ・ 設置校においては、現段階で新規長期欠席生徒数が令和5年度より大きく減少し、効果が見られている。

○ 校内サポートルーム利用生徒数

表 5

指定校	学 校	R 3	R 4	R 5	R 6 (11月末現在)
県 指定校	中学校 A	24	20	21	
	中学校 B		11	17	13
	中学校 C			17	15
	中学校 D			12	8
	中学校 E				9
市 指定校	中学校 F				15
	中学校 G				16
	中学校 H				8
市 モデル校	中学校 I	10	14	16	16
合 計(人)		34	45	83	100

図 7 校内サポートルーム設置校（県・市指定・市モデル校）における利用生徒数の推移



○ 校内サポートルーム設置校における新規長期欠席生徒数の比較

※ 欠席日数+出席停止・忌引き等を含まない
※ すべて11月末の数

図 8 R5年度とR6年度の比較
(市指定3校)

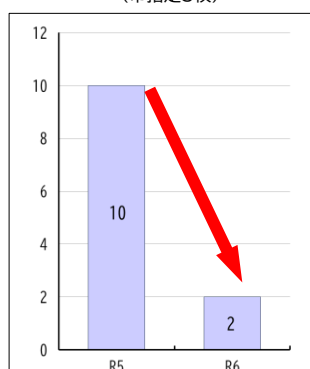
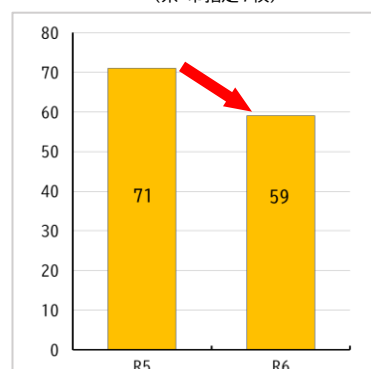


図 9 R5年度とR6年度の比較
(県・市指定7校)



高知市の取組及び「保幼小の架け橋プログラム事業」の状況について

高知市教育委員会 学校教育課

1 保幼小連携推進地区事業等の取組

- R6年度 41全校区のべ128園
- 学校訪問や要請支援、計画書・報告書により取組状況を把握・支援
- 取組の周知・啓発
 - ・保幼小全教職員配付の実践事例パンフレット作成・配付
 - ・全小担当者全研修(保幼小連携・接続研修会)での実践報告・交流
 - ・高知市幼児教育推進協議会(代表者・関係者委員会)での報告・協議

【保幼小連携・接続実践事例パンフレット】(R6.3)



令和6年度 保・幼・小連携推進地区事業実施地域(各校区の保育所・幼稚園・認定こども園一覧)

学校名	園名	学校名	園名
第四小	上街 保育園 石立 保育園(公) 河ノ瀬 保育園(公) 城山 保育園	朝倉小	朝倉 保育園(公) 朝倉中央 保育園 朝倉木の丸 保育園 朝倉くすのき 保育園 朝倉くすのき 保育園分園
第六小	丸の内 保育園 こうちまち 保育園 高知聖母 幼稚園 ☆たかしろ 乳児園	鴨田小	鴨田 保育園 神田みどり 保育園(公) 鴨部わかば 保育園 鏡川 保育園 杉の子 幼稚園 ※杉の子 第2幼稚園
江ノ口小	江ノ口 保育園 あたご 幼稚園 高知聖母 マリア園	一ツ橋小	※江ノ口 保育園 ※あたご 幼稚園
江陽小	江の口東 保育園 江陽 保育園 丑之助 学園 ※桜井 幼稚園	介良小	愛善 保育園(公) 介良西 保育園(公)
旭小	旭 保育園(公) 愛育会 保育園 ※ボッポ 保育園 塚ノ原 保育園 もみのき 幼稚園	大津小	大津 保育園(公) 大津東 保育園 芸術学園 幼稚園
旭東小	※愛育会 保育園 福井 保育園 ボッポ 保育園 高知学園 高知幼稚園	朝倉第二小	若葉 保育園(公) 針木 保育園 若草 幼稚園
潮江小	ふくし 園 華山 保育園 潮モンテッソーリ学園 ※高知愛児 園 ☆のぞみ 保育園	潮江南小	高知愛児 園 港孕 保育園 城南 保育園 くすみ 幼稚園
潮江東小	潮江 双葉園 潮江第二 双葉園	神田小	神田 保育園 杉の子 幼稚園 杉の子第2 幼稚園 ※石立 保育園(公) ※河ノ瀬 保育園(公) ※城山 保育園
小高坂小	宮前 保育園(公) 小高坂 保育園(公) 小高坂 双葉園 清和 幼稚園	泉野小	あざみの 保育園 ひなぎく 保育園 東泉寺 保育園
昭和小	常盤 保育園 ちより 保育園(公) びすた 保育園 やえもん 幼稚園学園	一宮東小	一宮 幼稚園 東山 保育園 ※あおい 保育園
泰小	泰中央 保育園(公) まるばし 保育園 いつみ 保育園	十津小	十津 保育園 ※みさと 幼稚園 ※三里 保育園 ※種崎 保育園
初月小	みかつき 幼稚園 初月 保育園 一ツ橋 保育園	横浜新町小	横浜新町 保育園 わらべ館 ※横浜 保育園 ※港孕 保育園
横浜小	横浜 保育園 瀬戸 保育園 瀬戸東 保育園 ※杉の子 せと幼稚園	介良潮見台小	中野 保育園(公) ※塚ノ原 保育園 ※もみのき 幼稚園 旭ヶ丘 保育園 清和幼稚園みどりの丘
長浜小	長浜 保育園(公) おさなご 園 杉の子せと 幼稚園	横内小	かがみ 幼稚園(公) ☆かがみ 保育園(公)
浦戸小	うらと龍馬 保育園	鏡小	春野中央 保育園(公) 春野平 保育園(公) うららか 保育園 へいわ 幼稚園 春野学園
三里小	三里 保育園 種崎 保育園 みさと 幼稚園 ※十津 保育園	春野東小	春野弘岡上 保育園(公) 春野弘岡中 保育園(公) 春野仁西 保育園(公) 春野西 保育園(公)
五台山小	五台山 保育園 五台山 吸江 保育園 高須第2 幼稚園	春野西小	南衛 保育園 さえんば 保育園(公) 桜井 幼稚園 聖泉 幼稚園
高須小	高須 保育園 新木 保育園 高須 幼稚園 葛島 保育園 ※芸術学園 幼稚園 ※高須第2 幼稚園	はりまや橋小	※かがみ 幼稚園(公)
布師田小	布師田 保育園	行川学園	とさやま 保育園(公)
一宮小	一宮 保育園(公) あゆみ 保育園 あおい 保育園 ※一宮 幼稚園 白ゆり 保育園	土佐山学舎	
久重小	久重 保育園(公)		

黄: 連携推進事業実施園校
橙: R6新規事業実施園校
※: 校区外連携園
☆: 乳児保育所

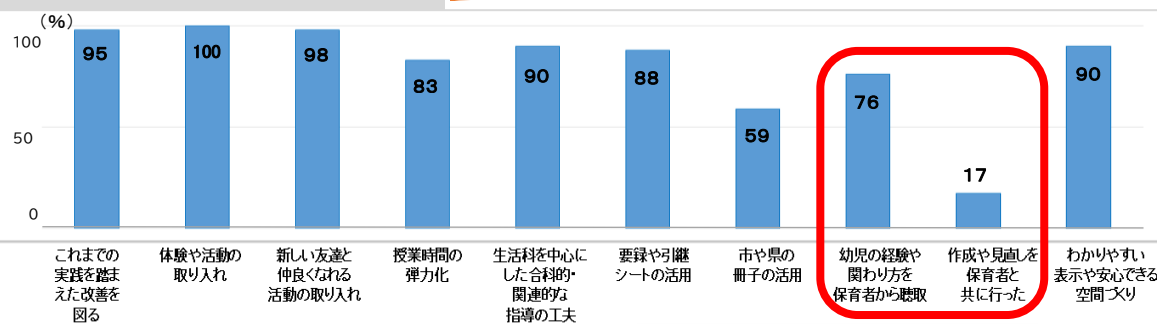
2 これまでの成果と課題【R5年度「保幼小連携・接続に関する調査」(全41校)より】

- 【成果】・スタートカリキュラムの見直しによる指導の工夫や、教職員連携・交流活動の内容の改善が進み、小1プロブレムの発生率が3%にまで減少
・保幼小連携・接続の取組の充実に向けた支援要請の増加
- 【課題】・生活科の指導
・互恵性のある継続的な交流活動(事前事後の対話による、学びや育ちの共有)

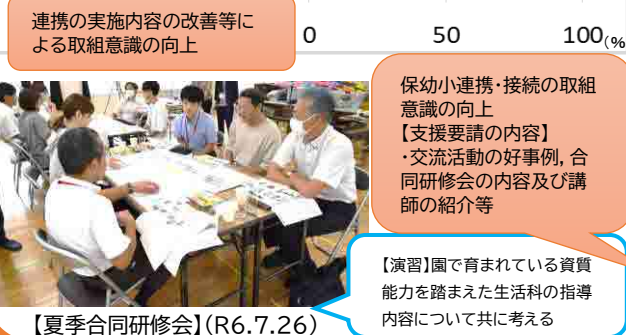
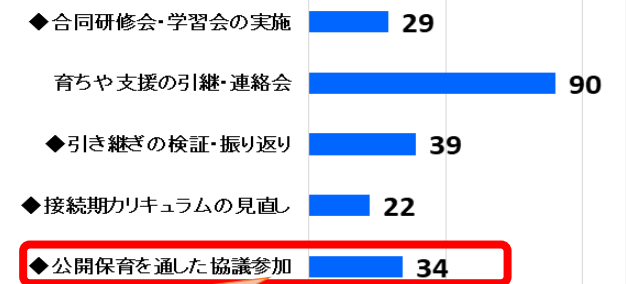
小学校学習指導要領等を踏まえた成果指標の達成状況

- ① スタートカリキュラムの実施を踏まえた改善 90%以上(R4 98% ⇒ R5 95%)
② 教職員の学習会や合同研修等の実施 50%以上(R4 65% ⇒ R5 75%)
③ ねらいある幼児と児童の交流活動の実施 90%以上(R4 78% ⇒ R5 82%)
④ 小1プロブレム発生率 3%以下(R4 3% ⇒ R5 3%)

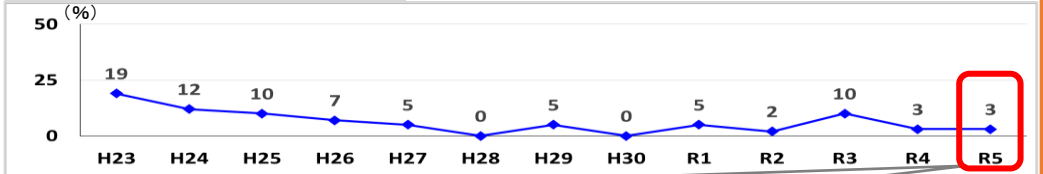
①スタートカリキュラムの実践の工夫



②教職員連携の実施内容



④小1プロブレム発生率の推移



【R4】①教職員の連携回数の増加と内容の改善

- ・「4回以上」実施 51%(+12%)、「合同研修会の実施」37%(+15%)
- ・「公開保育・協議への参加」24%(+14%)⇒R5:34%(+10%)
- ・「接続期のカリキュラムの見直し」22%(+17%)

②一日入学の再開と交流活動の複数回実施の割合増加

- ・一日入学の再開 93%(+79%)

【R5】〇スタートカリキュラムの実践の工夫

- ・「幼児期の経験や関わり方を保育者から聴取」61%(+15%)

◆支援してほしい内容【実態調査より】

	R5	R6
小1サポーター等の人的支援	12校	7校
連携・接続の取組支援	5校	24校

◆合同研修会実施校区【当年度8月末時点】

R5	R6
2校区	9校区

講師を招聘し、保幼小の教職員が、接続先を見通した教育課程の編成やスタートに向けて、共に学ぶ校区の増加

3 「保幼小の架け橋プログラム事業」について

◆教員等が子供の育ちを中心に据え、互いの教育内容を話し合う取組の継続

1. 春野東小学校区の取組状況と成果

市教委 【春野東小】1学年支援(随時)

◎子供の育ちに関する課題に改善傾向

- 教員の意識改革に伴う授業改善
- ⇒「探究」を軸に組織的な取組へと発展

2. 市内全域への普及に向けた取組

R5年度◆自主校長会(高知市立全学校長対象)【2月】

- ・シンポジウムダイジェスト版及び春野東小学校長による実践報告

◆『保幼小連携・接続実践事例パンフレット』配付【3月】

- ・高知市の全園・校教職員

R7年度◆モデル地域に準ずる2校区(江陽小学校区・朝倉第二小学校区)を重点的に推進

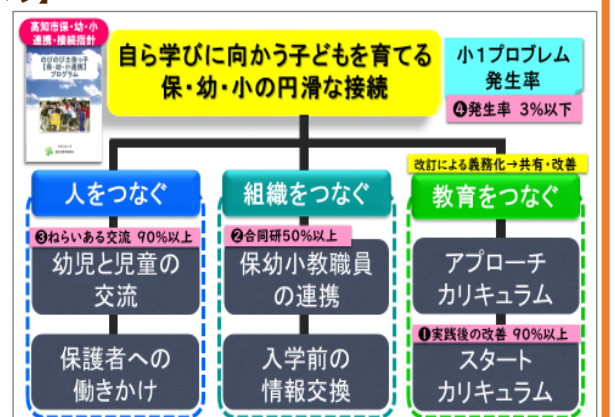
R6年度◆架け橋プログラムの理解及び『パンフレット』活用促進のための研修会、

スタートカリキュラム学校訪問(全41校)【4月〜】

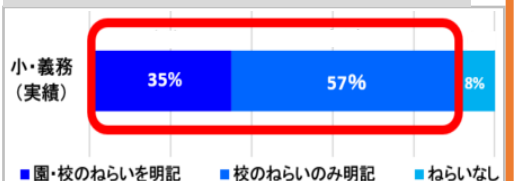
◆協議会等での架け橋事業の取組周知【5月〜】

『保幼小の架け橋プログラムシンポジウム【12/26】』

◆モデル地域の実践及び先進的な事例をまとめたパンフレット配付【3月】



③幼児と児童の交流(ねらいの明記)



- ・学校のみでのねらいの明記を含めると、92%が明記
- ・園・学校への相互参加等、交流内容の充実⇒参加型、双方向性のある内容